

学校法人香川栄養学園 平成 23 年度事業報告書

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

目次

I. 学校法人の概要	3
1. 建学の理念・精神	3
2. 沿革	3
3. 設置学校等	5
4. 役員及び職員に関する情報	5
(1) 役員一覧	5
(2) 職員数	5
5. 理事会・評議員会 開催状況	6
(1) 理事会	6
(2) 評議員会	7
(3) 常任理事会	7
II. 事業の概要	9
1. 施設・設備事業の概要	9
(1) 駒込キャンパスの施設・設備整備関係	9
(2) 坂戸キャンパスの施設・設備整備関係	9
(3) 大震災に伴う修繕工事等	9
2. 教育研究の概要	11
(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報	11
(2) 教員組織	11
(3) 学生に関する情報	12
(4) 教育課程に関する情報	15
(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報	17
(6) 学習環境に関する情報	28
(7) 学生納付金に関する情報	32
(8) 学生支援と奨学金に関する情報	34
(9) 主な教学関係事業の概況	38
3. 当該年度のその他の事業の概要	42
4. 特長ある取り組みの概要	44
(1) 社会貢献・連携活動の概要	44
(2) 生涯学習	45
(3) 国際交流の概要	45
III. 財務の概要	47
IV. 財務比率	50

1. 学校法人の概要

1. 建学の理念・精神

学校法人香川栄養学園の建学の精神は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」ことです。

学園創立者の香川昇三・綾は、当時蔓延していた脚気が胚芽米で容易に治療・予防できることに感動し、真の医者は病人を診るよりも病人を出さないことに務めるべきだと考え、1933（昭和8）年に自宅で『家庭食養研究会』を開いて栄養学の普及活動を始めました。

2. 沿革

昭和の初め、東京大学の医学部で脚気の研究をしていた医師の香川昇三と香川綾は、薬ではどうしても治らない脚気の患者に胚芽米を与えることにより脚気が劇的に治療することから、人間の健康に対する食の重要性を強く認識し「医師のやるべき仕事は、病人を治す前に病人を出さないことであり、このためには正しい食生活が最も重要なことである。」という確固たる信念に基づいて、1933年現在の文京区本駒込の自宅に家庭食養研究会を設立しました。

家庭食養研究会は塾のようなものであり、大学の先生の妻女、近所の主婦など家庭の食事を担当する人々を対象とし、最新の栄養学の知識やその実践方法についての講義や実習を行っていました。講師には、香川昇三・綾夫妻の他にも東京大学の先生方が何人も参加され、また栄養学の実践には欠くことのできない調理技術には、一流のホテルのシェフや高級料亭の板前が本格的な指導を行っていました。そしてこの家庭食養研究会の講義録が1935年月刊誌「栄養と料理」となり、現在なお60年以上の伝統をもって女子栄養大学出版部より継続発行されております。

家庭食養研究会の究極の目的は、「食により人間の健康の維持・改善を図る」であり、理想は食事が原因となるすべての病気を社会から追放し、同時にすべての人を食事によってより健康にすることです。家庭食養研究会はこの理想の具現化のために時代とともに発展し、現在では専門学校、短期大学部、大学、大学院を擁する「食と健康」を専門とする世界でもまれな学園となりました。その建学の精神と理想は今日においても家庭食養研究会設立当時とまったく変わっていないものです。

学校法人 香川栄養学園 沿革

昭和 8 年	「家庭食養研究会」発足
昭和 12 年	「家庭食養研究会」を「栄養と料理学園」に名称変更
昭和 15 年	「女子栄養学園」に改称
昭和 23 年	「財団法人香川栄養学園」を設立
昭和 25 年	「女子栄養短期大学」を設置
昭和 26 年	「学校法人香川栄養学園」に改組
昭和 34 年	「香川調理師学校」を設置
昭和 36 年	「女子栄養大学」家政学部食物栄養学科を設置 「女子栄養学園」と「香川調理師学校」を統合して「香川栄養学校」栄養士科・調理師科を設置
昭和 40 年	「女子栄養大学」家政学部を栄養学部に改組
昭和 42 年	「女子栄養大学」に栄養学部二部栄養学科を設置
昭和 44 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科栄養学専攻修士課程設置
昭和 51 年	「香川栄養学校」を「香川栄養専門学校」に改組
昭和 55 年	「女子栄養大学」栄養学部に保健栄養学科を設置
平成 元年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科栄養学専攻博士後期課程設置
平成 3 年	「香川栄養専門学校」の調理高等課程調理師科を調理専門課程調理師科と調理高等課程調理師科に分離 製菓科は調理専門課程製菓科となる
平成 5 年	「女子栄養大学」栄養学部に文化栄養学科を設置
平成 7 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科保健学専攻修士課程を設置
平成 8 年	「香川栄養専門学校」調理高等課程調理師科を廃止
平成 9 年	「女子栄養大学」大学院栄養学研究科保健学専攻に博士後期課程を設置
平成 12 年	「女子栄養短期大学」を「女子栄養大学短期大学部」に名称変更
平成 15 年	「女子栄養大学」栄養学部栄養学科実践栄養学専攻を実践栄養学科に栄養学科栄養科学専攻並びに保健栄養学科を統合し保健栄養学科に改組 同栄養学部二部栄養学科を保健栄養学科に名称変更
平成 18 年	「女子栄養大学」栄養学部文化栄養学科を食文化栄養学科に名称変更
平成 21 年	「香川栄養専門学校」調理専門課程調理マイスター科（2年制）設置
平成 22 年	「香川栄養専門学校」栄養専門課程栄養士科を廃止 「香川栄養専門学校」を「香川調理製菓専門学校」に名称変更

3. 設置学校等

設置学校		学長名	所在地
女子栄養大学	大学院	香川 芳子	坂戸キャンパス 埼玉県坂戸市千代田三丁目9番21号
	栄養学部		
	栄養学部 二部		駒込キャンパス
女子栄養大学短期大学部		香川 芳子	東京都豊島区駒込三丁目24番3号
香川調理製菓専門学校		香川 明夫	

4. 役員及び職員に関する情報

(1) 役員一覧

(平成23年5月1日現在)

理事長	香川達雄	(学校法人香川栄養学園 事業理事)
副理事長	香川芳子	(女子栄養大学学長、同短期大学部学長、香川調理製菓専門学校長)
常務理事	山根正彦	(学校法人香川栄養学園 国際交流部長)
理事	五明紀春	(女子栄養大学副学長)
理事	西本憲弘	(女子栄養大学短期大学部 副学長)
理事	梅岡總冶	(梅岡本店 社長)
理事	宮坂忠夫	(女子栄養大学 名誉教授)
理事	小林辰三郎	(株式会社トーハン 取締役)
理事	濱口敏行	(ヒゲタ醤油株式会社 代表取締役社長)
理事	岸朝子	(ak オフィス)
理事	藤村和男	(公益財団法人教科書研究センター 参与)
理事	山野井昭雄	(味の素株式会社 社友)
理事	遠藤厚之助	(明海大学名誉教授)
理事	染谷忠彦	(学校法人香川栄養学園 広報部長)
理事	佐久間慶子	(女子栄養大学 大学院研究科長)
理事	井形昭弘	(名古屋学芸大学 学長)
監事	志甫圭一	(横浜簡易裁判所司法委員)
監事	工藤誠司	(工藤特許事務所長)

(2) 職員数

女子栄養大学

平成23年5月31日現在 (単位:人)

区分	男	女	計
本務者	19	60	79
兼務者	13	10	23
合計	32	70	102

女子栄養大学短期大学部

平成 23 年 5 月 31 日現在 (単位：人)

区 分	男	女	計
本 務 者	6	15	21
兼 務 者	13	11	24
合 計	19	26	45

香川調理製菓専門学校

平成 23 年 5 月 31 日現在 (単位：人)

区 分	男	女	計
本 務 者 の み	6	10	16

5. 理事会・評議員会 開催状況

(1) 理事会 開催回数 4 回 審議事項以下の通り

平成 23 年 5 月 10 日 (火) 出席 16 人 (うち、委任状出席 4 人) 監事 2 人	第 1 号議案 「食品成分表 改訂最新版」に関する文部科学省からの注意等に係る対応の件 第 2 号議案 その他の件
平成 23 年 5 月 27 日 (金) 出席 14 人 (うち、委任状出席 2 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 22 年度事業報告の件 第 2 号議案 平成 22 年度決算の件 第 3 号議案 評議員選任の件 第 4 号議案 その他の件 (報告事項)
平成 23 年 12 月 13 日 (火) 出席 16 人 (うち、委任状出席 3 人) 監事 2 人	第 1 号議案 香川調理製菓専門学校校長選任 (交代) の件 第 2 号議案 香川調理製菓専門学校副校長選任 (交代) の件 第 3 号議案 女子栄養大学短期大学部副学長選任 (交代) の件 第 4 号議案 その他の件
平成 24 年 3 月 29 日 (木) 出席 16 人 (うち、委任状出席 2 人) 監事 2 人	第 1 号議案 平成 23 年度補正予算の件 第 2 号議案 第 2 号基本金組入計画変更 (増額) の件 第 3 号議案 平成 24 年度事業計画の件 第 4 号議案 平成 24 年度予算の件 第 5 号議案 平成 25 年度新入生学納金の件 第 6 号議案 「香川調理製菓専門学校名誉校長の称号授与に関する規則」制定の件 第 7 号議案 香川調理製菓専門学校名誉校長の称号授与の件 第 8 号議案 女子栄養大学短期大学部学長選任の件 第 9 号議案 女子栄養大学栄養科学研究所長選任の件 第 10 号議案 評議員人事の件 第 11 号議案 その他の件 (報告事項)

(2) 評議員会 開催回数 4回 審議事項以下の通り

平成23年5月10日(火) 出席32人(うち、委任状出席9人) 監事2人	第1号議案 「食品成分表 改訂最新版」に関する文部科学省からの注意等に係る対応の件 第2号議案 その他の件
平成23年5月27日(金) 出席32人(うち、委任状出席5人) 監事2人	第1号議案 平成22年度事業報告の件 第2号議案 平成22年度決算の件 第3号議案 理事選任の件 第4号議案 その他の件(報告事項)
平成23年12月13日(火) 出席31人(うち、委任状出席8人) 監事2人	第1号議案 香川調理製菓専門学校校長選任(交代)の件 第2号議案 香川調理製菓専門学校副校長選任(交代)の件 第3号議案 女子栄養大学短期大学部副学長選任(交代)の件 第4号議案 その他の件
平成24年3月29日(木) 出席32人(うち、委任状出席3人) 監事2人	第1号議案 平成23年度補正予算の件 第2号議案 第2号基本金組入計画変更(増額)の件 第3号議案 平成24年度事業計画の件 第4号議案 平成24年度予算の件 第5号議案 平成25年度新入生学納金の件 第6号議案 「香川調理製菓専門学校名誉校長の称号授与に関する規則」制定の件 第7号議案 香川調理製菓専門学校名誉校長の称号授与の件 第8号議案 女子栄養大学短期大学部学長選任の件 第9号議案 女子栄養大学栄養科学研究所長選任の件 第10号議案 理事人事の件 第11号議案 その他の件(報告事項)

(3) 常任理事会 開催回数 8回 審議事項以下の通り

平成23年4月26日(火) 出席11人(うち、監事2人)	第1号議案 女子栄養大学名誉教授称号授与の件 第2号議案 常任理事会構成員の担当業務の件 第3号議案 退任役員慰労金等支給の件 第4号議案 「香川栄養学園の役員及び評議員が退任した場合に贈呈する感謝状に関する申し合わせ」(案)の件 第5号議案 その他の件
平成23年5月24日(火) 出席9人(うち、監事2人)	第1号議案 理事会・評議員会(平成23年5月27日開催)付議事項の件 第2号議案 平成23年度学内役員期末手当の件 第3号議案 平成23年度学外役員報酬(常任理事会構成員)の件 第4号議案 その他の件
平成23年6月28日(火) 出席10人(うち、監事2人)	第1号議案 香川調理製菓専門学校学則変更の件 第2号議案 その他の件
平成23年7月26日(火) 出席11人(うち、監事2人)	審議事項なし
平成23年9月27日(火) 出席10人(うち、監事2人)	第1号議案 スポーツ栄養実践指導者認定事業運営委員会の件 第2号議案 「学校法人香川栄養学園事務組織分掌規定」改定の件 第3号議案 その他の件(報告)

平成 23 年 11 月 29 日(火) 出席 10 人(うち、監事 1 人)	
第 1 号議案	臨時理事会・評議員会(平成 23 年 12 月 13 日開催)付議事項の件
第 2 号議案	平成 24 年度在学生(新入生除く)学納金の件
第 3 号議案	「私費外国人留学生授業料減免に係る細則」(改定)の件
第 4 号議案	「女子栄養大学学則第 30 条第 4 項及び女子栄養大学短期大学部学則第 39 条に定める納入金の納入方法に係る細則」(新設)の件
第 5 号議案	平成 23 年度役員報酬・期末手当等の件
第 6 号議案	その他の件
平成 24 年 1 月 31 日(火) 出席 11 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	「香川調理製菓専門学校名誉校長の称号授与に関する規則」の制定及び名誉校長称号授与の件
第 2 号議案	女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部 平成 25 年入学生の学納金改定の件
第 3 号議案	「カーティン大学内女子栄養大学アカデミック・オフィス駐在員の派遣に関する規定」(改定)の件
第 4 号議案	その他の件
平成 24 年 2 月 28 日(火) 出席 11 人(うち、監事 2 人)	
第 1 号議案	女子栄養大学副学長継続及び給与等の件
第 2 号議案	役員等(香川調理製菓専門学校副校長)退職金の件
第 3 号議案	その他の件(報告事項)

II. 事業の概要

1. 施設・設備事業の概要

(1) 駒込キャンパスの施設・設備整備関係

- 2号館2階階段教室のAVシステム、マイクシステム並びにプロジェクター1台、液晶モニター3台、3CCDカメラ2台の更新を行いました。
- 全館にわたる実習室、実験室等に設置している大型給湯器の内設置後10年超経過している22台を省エネ、危険防止から更新いたしました。
- 1・2号館3階連絡橋並びに体育館から学生倶楽部室への避難階段の経年劣化による損傷、鉄骨錆発生から補強も含め改修工事を行いました。また、本工事に伴い連絡橋の防火扉を新式に更新致しました。
- 平成24年度新入生増加に伴い、2号館4階2407実験・講義室を120人対応の普通教室に変更、かつ3号館5階小講堂を200人収容と致しました。

(2) 坂戸キャンパスの施設・設備整備関係

- 「病原体安全取扱・管理指針」に則り、臨床微生物学実習室に使用している1号館1階第7学生実験室をBSL2実験室に指定するために隣室共同機器室、同館2階学生機器室も合わせ改修工事を行いました。
- 2号館1階多目的栄養教育学実習室AVシステムは設置後11年が経過していることから液晶プロジェクター、3CCDカメラ、液晶モニター、タッチパネル、マイクシステム等全面更新を行いました。
- 若葉寮内の中庭舗装部分並びに花壇部分が損傷等が激しく、また舗装部分の一部が盛り上がって来ていることから改修工事を行いました。
- 2号館系統、4号館系統、6号館3階用、大学農園用として使用しているGHP空調機の内耐用年数超過している室外機8台、室内機37台を省エネタイプに更新いたしました。
- 研究所分析センター内のドラフトチャンバー2台並びに研究用大型冷蔵庫は耐用年数も超過し故障が頻発していることから更新いたしました。
- 坂戸カフェテリア厨房内の設備機器等の老朽化により、シチームコンベクションオープン1台、ティルティングパン1台を更新並びにプレハブ冷凍庫、冷蔵庫用のシェルフ取り付けと修理を実施いたしました。それに合わせ温蔵庫、グリストラップ浄化装置の新設を行い、また厨房内の温度設定機能が低下していることから衛生環境改善も含め室外空調機を5馬力から16馬力に変更しかつ室内空調機2台増設、スポット空調機8台を新設いたしました。

(3) 大震災に伴う修繕工事等

- 駒込キャンパス、坂戸キャンパス共に事故につながるような大規模な崩壊等は無く修繕（駒込26箇所、坂戸16箇所）の全てが小工事で済みました。
また、坂戸キャンパス平成23年度修繕費用10,523千円の内5,008千円を補助金として交付を受けております。
(補助金：平成23年度以降の修繕、かつ修繕費3百万円以上。)
両キャンパスとも、試薬品類保存庫等、備品什器類等における耐震固定も着実に実施しております。

費用、改修時期等は以下の通りです。

(単位：千円)

事 項	事 業 内 容	事 業 費	実 施 時 期
(1) 駒込校舎 改修工事等	2号館階段教室 AV システム機器更新	6,300	平成 23 年 4 月
	全館設置後 10 年超経過大型給湯器 22 台更新	9,975	平成 23 年 4 月
	1・2 号館 3 階連絡橋、屋上避難路改修工事	12,900	平成 23 年 8 月
	2 号館 2407 実験・講義室改修工事	5,828	平成 24 年 3 月
	駒込校舎 計	35,003	
(2) 坂戸校舎 改修工事等	1 号館共同機器室・第 7 学生実験室改修工事	6,300	平成 23 年 4 月
	2 号館多目的栄養教育実習室 AV システム更新	6,300	平成 23 年 4 月
	若葉寮外講（舗装・花壇）改修工事	9,450	平成 23 年 4 月
	2 号館他 GHP 空調機室外機 8 台、室内機 37 台更新	73,500	平成 23 年 5 月
	別館研究所ドラフトチャンパー 2 台他更新	7,220	平成 23 年 5 月
	カフェテリア厨房設備機器新設、更新並びに空調機増設等	11,709	平成 24 年 1 月
	坂戸校舎 計	114,479	
	駒込・坂戸校舎 合計	149,482	
(3) 大震災に伴う 修繕工事等*	駒込キャンパス修繕工事（平成 23 年度分） 10 箇所	2,206	平成 23 年 5 月
	坂戸キャンパス修繕工事（平成 23 年度分） 10 箇所	10,523	平成 23 年 5 月
	(合計) 20 箇所	12,729	

※参考 平成 22 年度震災修繕工事分については以下の通りでした：

坂戸キャンパス 6 箇所 583 千円
駒込キャンパス 16 箇所 566 千円

2. 教育研究の概要

(1) 教育研究上の基本となる組織に関する情報

■ 教育研究上の基本組織

【女子栄養大学】	大学院 栄養学研究科	栄養学専攻	修士課程
			博士後期課程
		保健学専攻	修士課程
			博士後期課程
	栄養学部	実践栄養学科	
		保健栄養学科	栄養科学専攻
			保健養護専攻
栄養学二部 (イブニングコース)	保健栄養学科		
【女子栄養大学 短期大学部】		食物栄養学科	
【香川調理製菓 専門学校】		調理専門課程	調理マイスター科
			調理師科
			製菓科

(2) 教員組織

■ 教員数（本務者男女別、職別人数）（平成23年5月1日現在 単位：人）

【女子栄養大学（学長を含む）】

学 長	男	0	1	87
	女	1		
副学長	男	2	2	
	女	0		
教 授	男	20	48	
	女	28		
准教授	男	4	15	
	女	11		
講 師	男	1	10	
	女	9		
助 教	男	0	11	
	女	11		

【女子栄養大学短期大学部】

学 長	男	0	0	20
	女	0		
副学長	男	1	1	
	女	0		
教 授	男	2	8	
	女	6		
准教授	男	2	8	
	女	6		
講 師	男	0	1	
	女	1		
助 教	男	0	2	
	女	2		

【香川調理製菓専門学校】

教員 13人

(3) 学生に関する情報

■ 受け入れ方針

◇ アドミッションポリシー

【女子栄養大学】

大学院	栄養学研究科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養学研究科は、食と健康を統合する研究者および高度専門職業人の養成を目指し、人々の健康の増進と幸福な社会の実現に寄与することを目的とする。 ○ 求める学生像は、 <ul style="list-style-type: none"> ・自らの課題意識、問題関心が明確である人 ・大学院の研究等を進めるのに、必要な学力を有している人
	(栄養学専攻)	○ 栄養・食に関連した科学的根拠の探求、およびそれを活用した実践への熱意を有する人
	(保健学専攻)	○ 地域保健、学校保健、バイオ・メディカルの基礎的研究に深い関心を持ち、ヘルスプロモーションに意欲を有する人
栄養学部	実践栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食・健康に好奇心や探求心をもち、食事の調製・提供のための知識や技術を身につけ、傷病者の栄養指導など、管理栄養士として栄養学の知識を実践したい人 ○ 豊かな人間性と感受性を持ち、生命の大切さを深く理解し、人々の健康と社会の福祉のために役立ちたいという情熱に燃えている人
	保健栄養学科 (栄養科学専攻)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 運動（スポーツ）に詳しい栄養士として、健康支援の場で活躍したい人 ○ 栄養学に基礎をもつ家庭科教諭として、教育の場で活躍したい人

		<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養に詳しい臨床検査技師として、保健・医療の場で活躍したい人 ○ 食品・生命科学に興味を持ち、企業活動の場で活躍したい人
	保健栄養学科 (保健養護専攻)	<ul style="list-style-type: none"> ○ 養護教諭にどうしてもなりたいという強い意志を持つ人 ○ 子ども達を愛し、養護教諭という職を愛する人 ○ 子ども達の心と身体の健康を守り育てる意欲のある人
	食文化栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養、調理、料理など、食べることや作ることに興味を持ち、食文化の世界に魅力を感じている人 ○ 「食生活と食文化のスペシャリスト」としてフードビジネスや食のメディアの世界で実力を持って活躍したい人
栄養学部二部	保健栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 栄養学の学びを通じて、自身の可能性を広げたい人 ○ 食と健康についての専門的知識を身につけ、社会貢献や仕事に役立てたい人 ○ 食と健康についての正しい知識を身につけ、食べることを通じて自分や周囲を健康にしたい人 ○ 栄養学の知識をリカレント(再学習)し仕事に役立てたい人 ○ 食と健康に強い家庭科教諭を目指したい人

【女子栄養大学短期大学部】

食物栄養学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 食・健康に好奇心や興味をもち、食事の調製・提供のための知識や技術を身につけ、栄養学の知識を実践する人 ○ 食産業や食文化及び健康分野等で「食生活のスペシャリスト」として活躍したい人 ○ 学業で得た知識を更に深く学び探究する意欲のある人
--------	---

◇本年度の入試広報活動

平成 23 年度は、案内書請求者の受験率 2%アップを目標にして、保護者パンフレットの作成など、新たな取り組み、ポスター、DM、広告内容の展開に変化をもたせました。

同時に、大学食堂がマスコミに取り上げられたことなどの効果もあり、志願者総数を大幅に伸ばすことができました。短期大学では、手続き率の上昇により、入学者総数が定員を大幅に超えてしまいましたが、他は概ね目標通りに入学者を確保することができました。

○平成 24 年度入試に向けて実施したオープンキャンパスは、過去最高となる 7,173 人（前年比 113%）の来場者を得ました。

○推薦入試、一般入試、センター入試の栄養合計の志願者は、過去 8 年間で最高となる 2,521 人（前年比 127%）の志願者を集めることができました。

■ 入学者の数、収容定員、在学する学生の数 (平成23年5月1日現在 単位：人)

①女子栄養大学 大学院

研究科	専攻	課程	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
栄養学研究科	栄養学専攻	修士課程	1	10	14	20	14	27
			2	10	-		13	
		博士後期課程	1	3	2	9	2	11
			2	3	-		4	
			3	3	-		5	
		保健学専攻	修士課程	1	10	3	20	3
	2			10	-	9		
	博士後期課程		1	3	1	9	1	4
			2	3	-		1	
			3	3	-		2	

②女子栄養大学

学部	学科	学年	入学定員 (3年次編入)	入学者	収容定員	在学者	合計
栄養学部	実践栄養学科	1	200	213	840	213	902
		2	200	-		220	
		3	200(20)	(21)		234	
		4	200(20)	-		235	
	保健栄養学科	1	150	175	600	175	709
		2	150	-		177	
		3	150	-		177	
		4	150	-		180	
	食文化栄養学科	1	67	86	308	86	368
		2	67	-		83	
		3	67(20)	(17)		94	
		4	67(20)	-		105	
栄養学部 二部	保健栄養学科	1	20	15	120	15	80
		2	20	-		6	
		3	20(20)	(18)		26	
		4	20(20)	-		33	

③女子栄養大学短期大学部

学科	学年	入学定員	入学者	収容定員	在学者	合計
食物栄養学科	1	160	168	320	168	353
	2	160	-		185	

■ 卒業者の数、進学者、就職者の数

女子栄養大学（平成 24 年 3 月 31 日現在 単位：人）

学部	学科	卒業者	進学者	就職者
栄養学部	実践栄養学科	230	7	206
	保健栄養学科	177	6	149
	食文化栄養学科	102	4	82
栄養学部二部	保健栄養学科	30	2	21

女子栄養大学短期大学部（平成 24 年 4 月 2 日現在 単位：人）

学科	卒業者	進学者	就職者
食物栄養学科	167	17	135

（４）教育課程に関する情報

■カリキュラム

◇ カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

【栄養学部】

専門的能力を高めるために、学科ごとに専門分野の選択科目を配置し、実験・実習科目を重視しています。分野ごとに基礎から応用へ、また専門分野間で関連付けながら学習ができるよう、教育課程を編成しています。

【栄養学部二部】

栄養、食品、調理、保健、食情報など 12 分野にわたる教育課程を編成すると共に、教員免許状（家庭（中学・高等学校））、フードスペシャリスト受験資格を取得できるよう、教育課程を編成しています。また、栄養学の知識を再学習（リカレント）を希望する科目等履修生の受け入れを行っています。

【短期大学部】

栄養学の知識・理論の学習を通して自ら正しい食生活を実践すると共に、社会において食を介して人の健康を守ることができる優れた栄養士の養成を図り、食事・栄養改善を通じて健康増進をなすための技術、食事・料理の調製・提供に必要な実際的な技術を身につけることを目的としてカリキュラムを編成します。

- 1 広範で多様な基礎的知識の獲得のため基礎・教養科目、自由選択科目を設置します。
- 2 専門的な方法論と知識を体系的に学ぶため、栄養士必修科目、専門科目および教職必修科目を設置します。
- 3 学生が幅広く関心のある科目を履修できることを目的として、専門科目、基礎・教養科目に一般コース・キャリアコースの教育目的に合わせたコース別科目を設置します。
- 4 栄養学を社会に還元し、健康を維持するための基礎技術・能力を育成するため多様な実験・実習科目を設置します。

■ 授業科目一覧

大学院、各学部・学科・専攻の授業科目及び授業内容は、シラバスに掲載されているとおり、教育課程の編成方針に即して設けられています。詳細は以下のとおりです。

●栄養学部・栄養学部二部

【実践栄養学科】

基礎教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（理化学・生物学、社会・環境と健康、人体の構造と機能・疾病の成り立ち、食べ物と健康）、専門科目群（基礎栄養学、応用栄養学、栄養教育論、臨床栄養学、公衆栄養学、給食経営管理、総合演習、臨地実習）、5系科目群（臨床栄養、地域保健・福祉栄養、スポーツ栄養、フードマネージメント、食品開発）、栄養教諭分野科目群、総合科目群、教職専門分野科目群。

【保健栄養学科 栄養科学専攻】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（栄養科学基礎）、専門科目群（ダイエットライフサイエンス、スポーツライフサイエンス、メディカルライフサイエンス、ヒューマンライフサイエンス）、総合科目群。

【保健栄養学科 保健養護専攻】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（生化学・生物学、医学基礎、人体の解剖・機能のしくみ、疾病の原因・薬の作用、感染症の原因と防衛のしくみ）、専門科目群（栄養・食生活、保健衛生・情報、養護・保健・看護、臨地実習、教職・教科、他に8領域）、総合科目群。

【食文化栄養学科】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（食と文化、食と生活・環境、栄養・健康、食品・衛生）、専門科目群（調理・料理表現、フードビジネス・経営、食情報、表現）、総合科目群。

【栄養学部二部 保健栄養学科】

基礎・教養科目群（人文科学、社会科学、自然科学、外国語）、専門基礎科目群（理学・情報）、専門科目群（栄養、食品・調理、衛生、保健、教職教科、総合）、高度専門科目群（栄養、食品・調理）、教職科目群（教職）。

●大学院栄養学研究科

【栄養学専攻修士課程】

基礎栄養科学領域（母子栄養学、高齢期栄養学、運動栄養学、基礎栄養学、栄養生理学、臨床栄養学、臨床栄養代謝学）、実践栄養科学領域（実践栄養学、臨床栄養管理学、医療栄養学、給食経営学、栄養管理学、食教育学、栄養教育学、栄養疫学）、生体科学領域（加齢生化学、分子栄養学、生化学、生理学、生物有機化学）、食文化科学領域（食文化人類学、食心理学、国際栄養学、国際開発論、食環境学、食情報学、生活教育学）、食物科学領域（食品学、食品機能学、食品衛生学、フードシステム論、調理学）、共通領域（栄養学研究法、実践栄養学専門演習、実践栄養学実習）。

【栄養学専攻博士後期課程】

栄養学（固有）領域（栄養生理学、実践栄養学、給食経営・栄養管理学、地域栄養学、食情報科学）、生体科学領域（臨床代謝学、医化学、分子栄養学、生化学、生理学）、食物科学領域（食品機能学、食品成分反応論、調理機能学）。

【保健学専攻修士課程】

健康科学領域（ヘルス・プロモーション論、成人・高齢者保健学、保健栄養学、環境保健学、地域保健学、産業保健学、国際保健学、保健社会学、保健情報科学、スポーツ医学、実践運動学）、臨床病態生化学領域（臨床生理学、臨床生化学、微生物学・感染制御学、免疫学、病理細胞学、臨床血液学）、実践学校保健学領域（学校保健学、学校メンタルヘルス論、性教育学、発育健康学、小児保健学、養護教諭論、学校保健看護学、救急看護論）、共通領域（保健学研究法）。

【保健学専攻博士後期課程】

地域保健学領域（地域保健計画学、臨床疫学、保健情報科学、環境保健学）、臨床病態生化学領域（臨床生理学、臨床生化学、微生物学・感染制御学、免疫学）、実践学校保健学領域（発育健康学、性教育学、実践学校保健学）。

(5) 学修の成果に係る評価及び卒業の認定に当たっての基準に関する情報

■ 学修の成果に係る評価

◇ 履修方法および卒業必要単位一覧

【女子栄養大学 大学院 栄養学研究科 (数字は単位数)】

専攻・課程等	修業年限	修得可能な学位及び資格等	必要修得単位数	科目区分ごとの修得単位数	
				必修	選択
栄養学専攻 修士課程	2年	修士 (栄養学)	30 以上	20	10 以上
		修士 (栄養学) 中学校・高等学校 教諭専修免許状 (家庭)	40 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 20 以上
保健学専攻 修士課程	2年	修士 (保健学)	30 以上	20	10 以上
		修士 (保健学) 中学校・高等学校 教諭専修免許状 (保健)	40 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 20 以上
		修士 (保健学) 養護教諭専修免 許状	40 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 20 以上
		修士 (保健学) 中学校・高等学校 教諭専修免許状 (保健) 及び養護 教諭専修免許状	44 以上	20	教員の資格取得のための必修科目を 含めて 24 以上
栄養学専攻 博士後期課 程	3年	博士 (栄養学)	必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること		
保健学専攻 博士後期課 程	3年	博士 (保健学)	所定の授業科目(3単位)を修得し、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査並びに最終試験に合格すること		

【女子栄養大学 栄養学部】
〔実践栄養学科〕平成23年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	45 単位	
専門科目	必修科目	28 単位	
			合計 124 単位以上

管理栄養士国家試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	45 単位	
	資格必修科目	8 単位	
専門科目	必修科目	28 単位	
	資格必修科目	29 単位	
			合計 134 単位以上

管理栄養士国家試験受験資格および教員免許状（栄養）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 26 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	*教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること		
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	8 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
	*教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること		
専門基礎科目	必修科目	45 単位	
	管理栄養士受験資格必修科目	8 単位	
	教員資格必修科目	2 単位	
専門科目	必修科目	28 単位	
	管理栄養士受験資格必修科目	29 単位	
	教員資格必修科目	4 単位	
教職科目	*20 単位（注意：栄養教諭教育実習指導・栄養教諭教育実習・教職実践演習（栄養教諭）の計 4 単位は卒業必須単位に含めることができない）		合計 162 単位以上

[保健栄養学科 栄養科学専攻] 平成 23 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	28 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
			合計 124 単位以上

栄養士免許を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	28 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
	資格必修科目	2 単位	
			合計 124 単位以上

栄養士免許およびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	28 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
	栄養士資格必修科目	2 単位	
	スポーツ栄養実践指導者資格必修科目	21 単位	
			合計 124 単位以上

栄養士免許および教員免許状（家庭）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 8 単位以上 計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 教員資格必修科目	28 単位 1 単位
専門科目	必修科目 栄養士受験資格必修科目 教員資格必修科目	42 単位 2 単位 18 単位
教職科目	*35 単位（注意：教育実習指導・教育実習Ⅰ・Ⅱ・教職実践演習（中・高）の計 7 単位は卒業単位に含めることができない）	
合計 152 単位以上		

栄養士免許、教員免許状（家庭）およびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *教員資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *教員資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 8 単位以上 計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 教員資格必修科目	28 単位 1 単位
専門科目	必修科目 栄養士受験資格必修科目 教員資格必修科目 スポーツ栄養実践指導者資格必修科目 教員・スポーツ栄養実践指導者資格共通必修科目（生涯スポーツ演習Ⅰ・Ⅱ）	42 単位 2 単位 16 単位 19 単位 2 単位
教職科目	*35 単位（注意：教育実習指導・教育実習Ⅰ・Ⅱ・教職実践演習（中・高）の計 7 単位は卒業単位に含めることができない）	
合計 171 単位以上		

栄養士免許および臨床検査技師国家試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	28 単位	
	臨床検査技師国家試験受験資格必修科目	2 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
	栄養士資格必修科目	2 単位	
	臨床検査技師国家試験受験資格必修科目	72.5 単位	
合計			170.5 単位以上

栄養士免許、臨床検査技師国家試験受験資格およびスポーツ栄養実践指導者の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	28 単位	
	臨床検査技師国家試験受験資格必修科目	2 単位	
専門科目	必修科目	42 単位	
	栄養士資格必修科目	2 単位	
	臨床検査技師国家試験受験資格必修科目	72.5 単位	
	スポーツ栄養実践指導者資格必修科目	21 単位	
合計			191.5 単位以上

〔保健栄養学科 保健養護専攻〕平成 23 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	15 単位	
専門科目	必修科目	39 単位	
合計			124 単位以上

教員免許状（養護・保健および看護）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 3 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 37 単位	
教職科目	*44 単位（注意：教育実習指導・養護実習指導・教育実習Ⅰ・Ⅱ・養護実習・教職実践演習（養護教諭）および（中・高）の計 14 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 164 単位以上

教員免許状（養護および保健）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 3 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 33 単位	
教職科目	*40 単位（注意：教育実習指導・養護実習指導・教育実習Ⅰ・Ⅱ・養護実習・教職実践演習（養護教諭）および（中・高）の計 14 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 156 単位以上

教員免許状（養護）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 2 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 25 単位	
教職科目	*24 単位（注意：養護実習指導・養護実習・教職実践演習（養護教諭）の計 7 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 131 単位以上

教員免許状（保健）を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 *資格必修科目 2 単位（日本国憲法）を含めること 自然科学分野 外国語分野 *英語・ドイツ語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修 *資格必修科目 2 単位（外国語コミュニケーション）を含めること	6 単位以上 6 単位以上 6 単位以上 8 単位以上	計 26 単位以上
専門基礎科目	必修科目 資格必修科目	15 単位 1 単位	
専門科目	必修科目 資格必修科目	39 単位 15 単位	
教職科目	*33 単位（注意：教育実習指導・教育実習 I・II・教職実践演習（中・高）の計 7 単位は卒業必要単位に含めることができない）		
			合計 131 単位以上

[食文化栄養学科] 平成 23 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	32 単位	
専門科目	必修科目	31 単位	
			合計 124 単位以上

※3 コースのうちいずれか 1 コースに帰属し、コース必修 2 科目 4 単位を修得しなければならない。

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	32 単位	
専門科目	必修科目	31 単位	
	フードスペシャリスト資格認定試験受験資格必修科目	16 単位	
			合計 124 単位以上

※3 コースのうちいずれか 1 コースに帰属し、コース必修 2 科目 4 単位を修得しなければならない。

フードコーディネーター（3 級）の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野	6 単位以上	計 24 単位以上
	社会科学分野	6 単位以上	
	自然科学分野	6 単位以上	
	外国語分野	6 単位以上	
	*英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6 単位履修		
専門基礎科目	必修科目	32 単位	
専門科目	必修科目	31 単位	
	フードコーディネーター(3 級)資格必修科目	8 単位	
			合計 124 単位以上

※3 コースのうちいずれか 1 コースに帰属し、コース必修 2 科目 4 単位を修得しなければならない。

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格およびフードコーディネーター（3級）の資格を取得して卒業するための要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野 *英語・中国語・フランス語のいずれかを選択し 6単位履修	6単位以上 6単位以上 6単位以上 6単位以上		計 24 単位以上
専門基礎科目	必修科目	32 単位		
専門科目	必修科目 フードスペシャリスト資格認定試験受験資格必修科目 フードコーディネーター(3級)資格必修科目	31 単位 16 単位 8 単位		
				合計 124 単位以上

※3 コースのうちいずれか1 コースに所属し、コース必修2科目4単位を修得しなければならない。

【女子栄養大学短期大学部】

[食物栄養学科]

	卒業要件	栄養士の資格を取得して卒業するための要件	栄養士とフードスペシャリストの資格を取得して卒業する要件	栄養士と栄養教諭の資格を取得して卒業する要件	栄養士・フードスペシャリスト・栄養教諭の資格を取得して卒業する要件
栄養士必修科目	14 単位 ※卒業必修科目、卒業選択必修単位を必ず履修すること	50 単位	50 単位	50 単位	50 単位
専門科目	48 単位以上 ※栄養士必修科目の選択科目、専門科目、基礎・教養科目より 45 単位以上を履修すること ※専門科目の実践栄養学演習及び基礎・教養科目の就業支援演習Ⅰ・Ⅱを必ず履修すること	11 単位以上 ※実践栄養学演習を必ず履修すること	11 単位以上 ※実践栄養学演習、食料経済(フードマーケティング論を含む)、食品科学(食品物性・機能論を含む)、食品化学実験の 4 科目を必ず履修すること	11 単位以上 ※実践栄養学演習、情報処理・生物統計演習、健康づくり運動処方、健康管理スポーツ実践の 4 科目を必ず履修すること	11 単位以上 ※実践栄養学演習、食料経済(フードマーケティング論を含む)、食品化学(食品物性・機能論を含む)、食品化学実験、情報処理・生物統計演習、健康づくり運動処方、健康管理スポーツ実践の 7 科目を必ず履修すること

基礎・教養科目		6 単位以上 ※就業支援演習 I・IIを必ず履修 すること	6 単位以上 ※就業支援演習 I・IIを必ず履修 すること	6 単位以上 ※就業支援演習 I・II、日本国憲 法、外国語コミュニ ケーションの 4 科目を 必ず履修すること	6 単位以上 ※就業支援演習 I・II、日本国憲 法、外国語コミュニ ケーションの 4 科目を 必ず履修すること
教職必修科目	—	—	—	15 単位	15 単位
自由選択科目	—	—	4 単位以上 ※フーズスペシャリスト 論、フーズコーディネ ート論の 2 科目を必 ず履修すること	—	4 単位以上 ※フーズスペシャリスト 論、フーズコーディネ ート論の 2 科目を必 ず履修すること
合計	62 単位以上	67 単位以上	71 単位以上	82 単位以上	86 単位以上

【女子栄養大学 栄養学部二部】
〔保健栄養学科〕平成 23 年度入学生

卒業要件

基礎・教養科目	人文科学分野 社会科学分野 自然科学分野 外国語分野	2 単位以上 2 単位以上 2 単位以上 4 単位以上	計 16 単位以上
専門科目	必修科目 実験実習演習科目（*印科目よ り）	22 単位 5 単位	
教職科目	〈注意：教育実習指導、教育実習 I・II、教職実践演習（中・高）（計 7 単位）は卒業必要単位に含まれない〉		
			合計 124 単位以上

教員免許状（家庭）を取得して卒業するための要件

	卒業要件	教員免許状（家庭）取得要件				
		教科の科目		教職の科目	免許法第66条の6に定める科目	介護等体験
		必修	選択	必修	必修	必修
基礎・教養科目	人文科学分野 2単位以上 社会科学分野 2単位以上 自然科学分野 2単位以上 外国語分野 4単位以上 計 16 単位以上				日本国憲法(2 単位)を含める 英語コミュニケーション I (2 単位)を含める	
専門科目	必修科目 22 単位	18 単位				
	実験実習演習科目 (※印科目より) 5 単位					
	選択科目	14 単位			保健体育講義(1 単位)・保健体育実技(1 単位)を含める	介護等体験指導(2 単位)を含める
教職科目	〈注意〉			33 単位		
		20 単位		33 単位		
		65 単位				
						合計131 単位以上

〈注意：教育実習指導、教育実習Ⅰ・Ⅱ、教職実践演習（中・高）（計7単位）は卒業必要単位に含まれない〉

フードスペシャリスト資格認定試験受験資格を取得して卒業するための要件

	卒業要件		フードスペシャリスト資格認定試験受験資格取得要件
基礎・教養科目	人文科学分野 2 単位以上 社会科学分野 2 単位以上 自然科学分野 2 単位以上 外国語分野 4 単位以上 計 16 単位以上		
専門科目	必修科目 22 単位		内 12 単位
	実験実習演習科目 (※印科目より) 5 単位		内 2 単位
	選択科目		11 単位
教職科目			
			計 25 単位
			合計 124 単位以上

(6) 学習環境に関する情報

■校地、校舎 (キャンパスの概要)

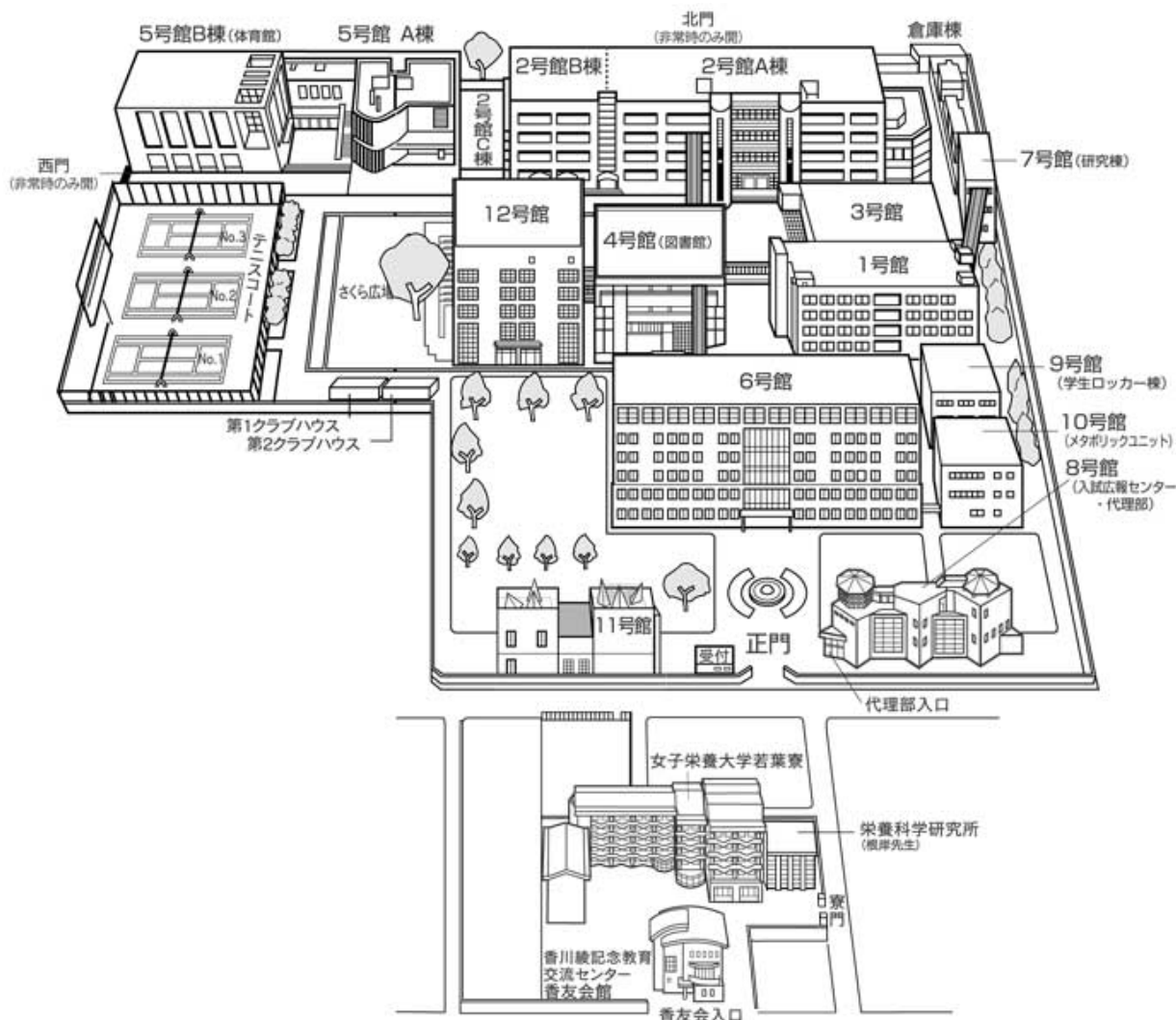
◇ キャンパス所在地

女子栄養大学	大学院	坂戸キャンパス
	栄養学部	埼玉県坂戸市千代田三丁目9番21号
	栄養学部二部	
女子栄養大学短期大学部		駒込キャンパス
香川調理製菓専門学校		東京都豊島区駒込三丁目24番3号

◇ キャンパスの概要

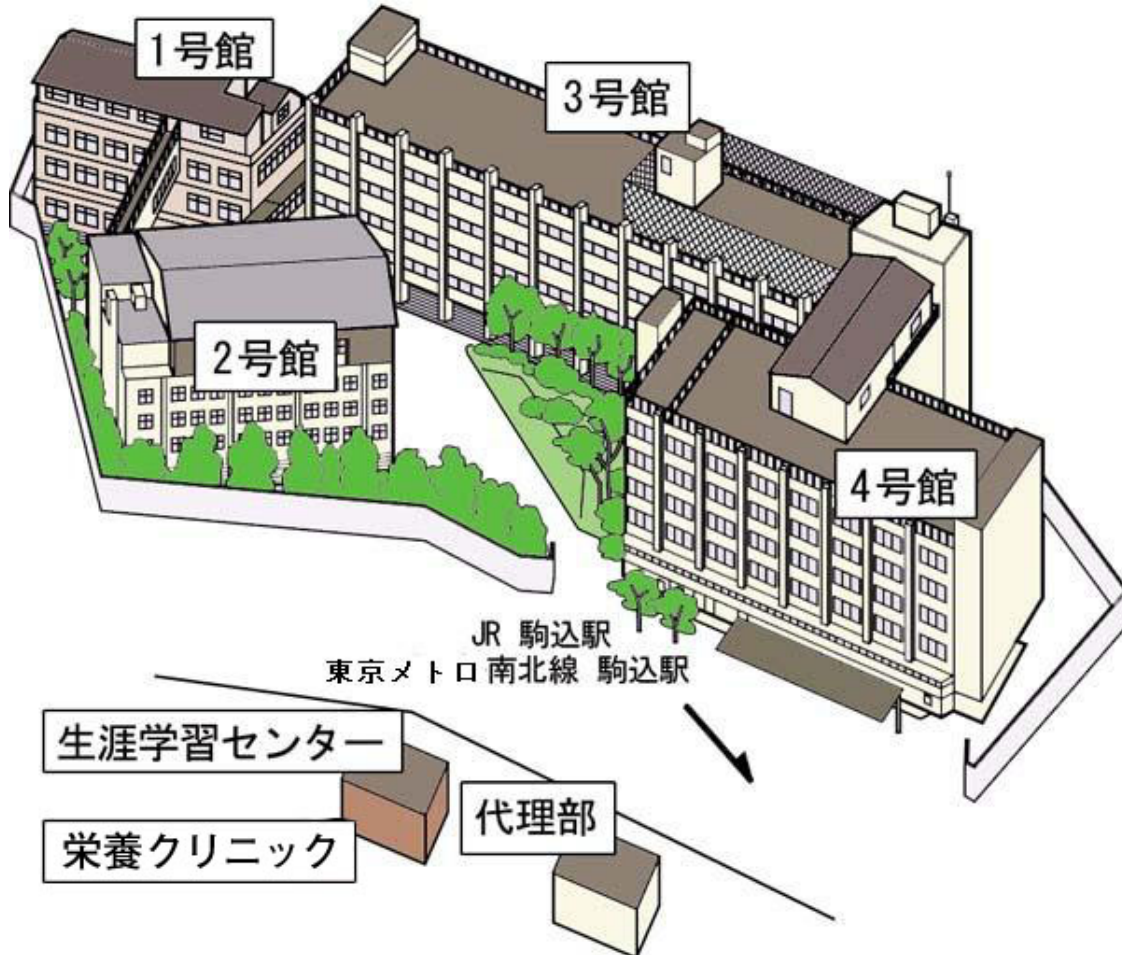
【坂戸キャンパス】

近隣には、「小江戸」と呼ばれ数多くの文化財が残る川越市や、自然に囲まれた「国営武蔵丘陵森林公園」「埼玉県こども動物自然公園」等があります。キャンパス内には「さくら広場」があり、春には見事な桜を咲かせています。



【駒込キャンパス】

都心にほど近い駒込キャンパス。この地こそ本学が発展する基礎を築いた地であり、ひいては日本の栄養学を切り拓く拠点となりました。決して広いとはいえないかも知れませんが、充実した実験・実習設備と高度な研究内容は、今も昔も高いレベルを誇っています。



◇ 校地

(単位：㎡)

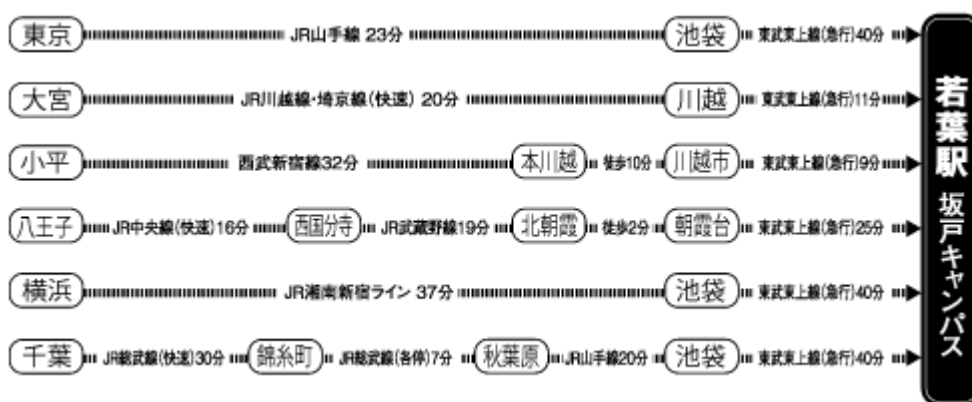
学校	基準面積	現有面積	差異	屋外運動場
女子栄養大学	17,480	58,369	40,889	10,543
女子栄養大学短期大学部	3,200	8,119	4,919	4,142
香川調理製菓専門学校	—	750	—	—
計	20,680	67,238	45,808	14,685

◇ 校舎

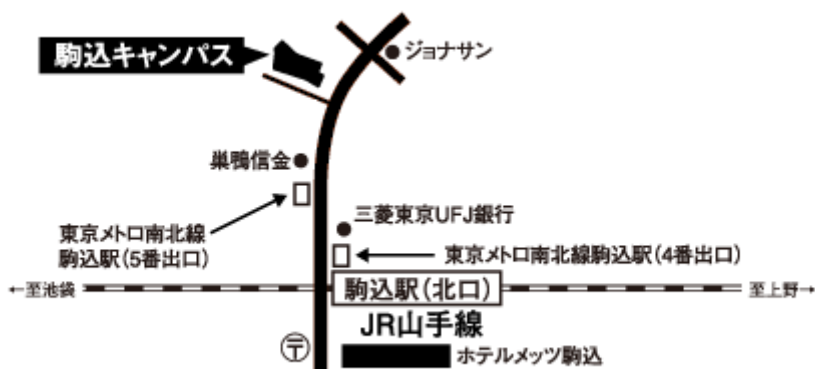
学校	基準面積	現有面積	差異	体育施設
女子栄養大学	16,367	42,352	25,985	1,298
女子栄養大学短期大学部	3,100	9,390	6,290	478
香川調理製菓専門学校	980	2,236	1,256	—
計	63,757	53,978	33,531	1,776

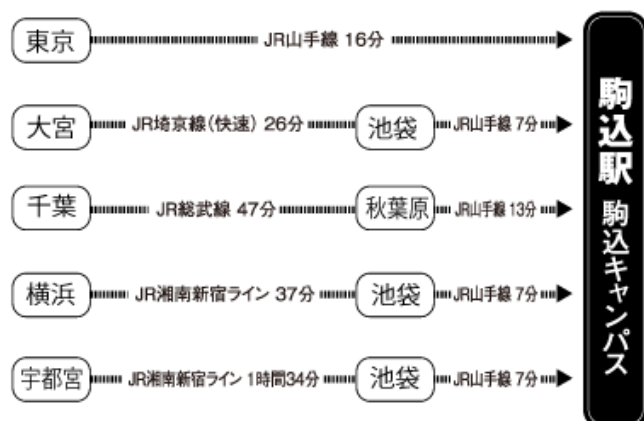
◇ 主な交通手段

【坂戸キャンパス】



【駒込キャンパス】





■ 課外活動の状況および施設等

①女子栄養大学

○活動

若葉祭実行委員会	弓道部	硬式庭球部
バレーボール部	バスケットボール部	ワンダーフォーゲル部
バドミントン部	マラソン部	競技ダンス部
スキー部	ハルモニアオーケストラ	二部舞踏研究部※
ギタークラブ	美術部	軽音楽部
食育ボランティア～ニコニコ会～	たんぼぼ	合唱団あらぐさ
華道部	栄大国際学生交流会 (ICE)	ユースホステルクラブ
点心部	English Communication Club	茶道部
EIDAI COOKING STUDIO (ECOS)	絆プラス1 (ワン) ※	

※学部二部 (イブニングコース)

○施設

坂戸キャンパス教室、学内設置テニスコート (夜間照明設備あり)、藤金運動場テニスコート、若葉グラウンド、体育館、小体育室、11号館 (クラブ活動の充実をはかるための施設、防音装置を施した音楽練習室3室、集会室7室、楽器庫やトランクルームがあります。)

クラブハウス (第1クラブハウスには14室と倉庫2室、第2クラブハウスには10室と倉庫1室があります。)

二部は駒込キャンパス、クラブ室 (1号館4階) など。

○支援

課外活動補助費は、活動日数、スポーツ系クラブでは大会出場登録日、音楽関係クラブでは演奏会場費などを参考に算出しています。年度末にはクラブ活動費報告書および領収書を学生担当に提出します。

各クラブ代表によるクラブ委員会を組織。新入生対象クラブオリエンテーションの運営や施設の使用について協議します。

学園祭 (若葉祭) は、毎年5月末または6月初めの土曜日、日曜日に開催。学生の実行委員会が企画・運営し、教職員がサポートしています。

②女子栄養大学短期大学部

○活動

駒込祭実行委員会	学生会	FAT BYE 部一体脂肪さようならー
調理研究部	茶道部	囲碁部
卓球部	ハルモニアオーケストラ	山ごはんクラブ
あおぞらクラブ	まちかどラブソディ	こども食育くらぶ
香川軽音楽部	スイーツサークル Amitie	球技サークル
ごはんの根っこ		

○施設

体育館、学生執行部室、駒込祭実行委員会室・クラブ室（1号館4階）

○支援

課外活動補助費は、所属団体構成人数により算出し助成します。また、学生の自治会である学生会により、学園祭、クラブ活動の経済的支援を行なっています。

学園祭（駒込祭）の企画・運営は駒込祭実行委員会が行っており、相談役として学生部長及びクラス担任、ゼミ指導教員及び教務学生担当の事務職員がサポートしています。

（7）学生納付金に関する情報

■授業料、入学科他大学が徴収する費用

女子栄養大学 栄養学部 栄養学部二部

（単位：円）

【1年生】	栄養学部				栄養学部二部
	実践栄養学科	保健栄養学科		食文化栄養学科	保健栄養学科
		栄養科学専攻	保健養護専攻		
【学納金】					
入学金（入学時）	375,000	375,000	375,000	361,000	260,000
授業料（前期分）	490,000	490,000	490,000	483,500	240,500
実験実習教育研究費（前期分）	136,000	136,000	136,000	125,000	57,500
施設費（前期分）	235,500	235,500	235,500	235,500	117,500
小計	1,236,500	1,236,500	1,236,500	1,205,000	675,500
【諸経費】					
調理学実習費（前期分）	19,050	18,100	17,250	19,050	14,050
同窓会入会金（入学時）	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000
小計	49,050	48,100	47,250	49,050	44,050
合計	1,285,550	1,284,600	1,283,750	1,254,050	719,550
【学用品費】					
教科書含む（前期分）	112,000	100,000	98,000	93,000	33,000

【編入学生】	栄養学部		栄養学部二部
	実践栄養学科	食文化栄養学科	保健栄養学科
【学納金】			
入学金（入学時）	375,000	361,000	260,000
授業料（前期分）	490,000	483,500	240,500
実験実習教育研究費（前期分）	136,000	125,000	57,500
施設費（前期分）	235,500	235,500	117,500
小計	1,236,500	1,205,000	675,500
【諸経費】			
同窓会入会金（入学時）	30,000	30,000	30,000
合計	1,266,500	1,235,000	705,500

学生寮費（若葉寮）

	前期分（4月～9月）	後期（10月～3月）
入寮費（入寮時のみ）	100,000	—
寮費	300,000	300,000
管理費	30,000	30,000
計	430,000	330,000

女子栄養大学 大学院

（単位：円）

	修士課程		博士後期課程	
入学金	200,000		200,000	
授業料（年額）	528,000	（2回分納）	528,000	（2回分納）
実験実習教育研究費（年額）	521,000	（2回分納）	521,000	（2回分納）
施設費（年額）	23,000	（2回分納）	23,000	（2回分納）

女子栄養大学短期大学部

【1年生】	食物栄養学科
【学納金】	
入学金（入学時）	360,000
授業料（前期分）	377,000
実験実習教育研究費（前期分）	133,000
施設費（前期分）	179,500
小計	1,049,500
【諸経費】	
調理学実習費（前期分）	16,500
給食管理実習給食代	5,000
家庭料理技能検定3級	12,000
学生会会費	2,000
同窓会入会金（入学時）	30,000
小計	65,500
合計	1,115,000
【学用品費】	
教科書含む（前期分）	113,000

(8) 学生支援と奨学金に関する情報

■ 大学が行なう支援（修学進路選択、心身の健康等）

○学生相談

小さな悩みにも、カウンセラーが適切なアドバイスをしています。学生生活を送る中では、さまざまな悩みや問題も生じてきます。悩みは、人に話すことで問題を客観的にとらえられたり、それが自分ひとりのものではないと気づいたりします。学生相談室では、勉強やアルバイト、プライベートなことなど、精神科医や臨床心理士が直接面談し、相談に応じています。相談日は坂戸キャンパスは平均週4回、駒込キャンパスは平均月6回。相談内容等は秘密を厳守しています。

○保健センター

保健センターでは、主に定期健康診断、健康相談、応急処置などを行っています。心や体がつらい時は、サポートをしています。

【本年度の報告】

- ・保健管理のシステム化：学生・生徒、教職員の健康管理については、年度のはじめに定期健康診断と健康調査票記載に基づく保健指導を実施しました。近年増加傾向にあるアレルギー疾患あるいはアレルギー反応を有する学生・生徒については、さらに詳細な調査を実施しました。これらの保健管理に関する情報を活用するためには、情報のシステム化が不可欠であるとの結論に達し、2年前からシステム化の検討を開始しました。その第一段階では、①定期健康診断記録の保管と健康指導への活用、②学外実習で求められる感染症対策の進捗状況把握と個別指導の迅速化を目標としました。①に関しては、定期健康診断の保存記録に基づき、体型の経年変化を出力することが出来ました。また、②に関しては、保健センターでの学生の個別指導に用いるシステム端末画面の検討を終了しました。
- ・学内の感染症予防：麻疹に関しては、入学時に実施する抗体価検査に基づき、予防接種を勧奨した結果、抗体保有率は98%以上に保持されています。今後、風疹その他の小児感染症についても免疫を保持するように、全学生に講義をしています。
- ・救命教育の実施：AED(自動体外式除細動器)の使用方法などをふくめ、学内実習では訓練用装置の貸し出し、「スポーツ栄養学」講義への参加などを実施しています。

○定期健康診断

年一回、4月に実施しています。受診できない場合は、各自が医療機関で受診（自費）し、結果を速やかに保健センターに提出します。

○健康相談

病院へ行くほどではないが、体のことで心配なことや聞いてみたいことなどがある場合、以下のとおり医師や看護師が相談にのっています。

*また、キャンパス周辺の医療機関案内（受診時間や地図など）を用意しています。

○医師による健康相談

相談内容	駒込	坂戸
内科医（センター長相談）	火曜日	水曜日
学医相談		月1回
精神科医相談	月1回	
婦人科医相談	月1回	月1回

※原則として予約制

※日時は保健センター掲示板で連絡。

※必要に応じて、専門医を紹介します。

その他、悩みや心配事、疑問など随時、看護師が相談にのっています。

○応急処置

学内でのケガや急病時は、保健センターで応急処置を行なっています。
体調が悪いときは、ベッド休養もできます。

【駒込保健センター利用案内】

開室時間 月～金 9:15～21:30 土 9:15～12:35
場 所 2号館2階（階段上がってすぐ）
連 絡 Tel・Fax 03-3576-3221

【坂戸保健センター利用案内】

開室時間 月～金 9:00～18:30 土 9:00～12:20

○学生寮（女子栄養大学若葉寮）

坂戸キャンパスから徒歩1分、東武東上線若葉駅から徒歩2分、5階建ワンルームマンションタイプの学生寮を設置しています。

入寮時には、身の回りのものを準備するだけで安心・快適な暮らしがスタートできます。

入寮定員約100人。入寮対象者は昼間部女子学生に限ります。在寮期間は2年間。
管理人常駐。門限23時。全洋室。1室1人ベッド・デスク・本棚・物入れ・ユニットバス・キッチン・冷蔵庫・洗濯機・シューズケース・トイレ・エアコン付個室のほかに共用の部屋として、ゼミ室、多目的室（和室）、談話室。
食事昼食、夕食は学生食堂（大学構内）の利用可。
所在地 埼玉県坂戸市千代田3-18-17（坂戸キャンパスから徒歩1分）

（交通案内）

東武東上線「若葉」駅東口より、徒歩2分
学生寮から駒込（短期大学部）キャンパスまでの通学時間約1時間
通学定期代（駒込キャンパスまで）1ヶ月／7,480円 3ヶ月／21,330円 6ヶ月／40,420円

○奨学金制度

くじけることのない「向学心」を応援しています。

経済的な事情のために、修学が困難な場合等、以下の奨学金制度があります。

◇北郁子奨学基金（大学1・2年生、短期大学部1年生）

本学卒業生、北郁子氏の「経済的理由のために母校で学ぶことができないことが無いように、若い方々を支援し育成したい」との遺志を継いだ奨学金制度です。平成21年創設。学納金の納入に著しい困難を来した学生に対し、半期ごとに学納金の一部を貸与（無利子）しています。書類審査・面接等により希望に添えない場合もあります。

◇横巻のぶ記念奨学金（大学3年生以上・短期大学部2年生）

本学園創立50周年記念事業の一環として設立された、創立者香川綾の生母名を冠した奨学金制度です。家庭の事情により、修学の途中で学納金の納入に著しい困難を来した学生に対し、半期ごとに学納金の一部を貸与（無利子）しています。書類審査・面接等により希望に添えない場合もあります。

◇香友会わかば奨学金（大学4年生・短期大学部2年生）

各学科、専攻における教育の理念を基に、それぞれの専門性を活かした社会活動を志向して学業向上に意欲を持って取り組んでいる学生に対して、その目的を遂行するための費用を助成（授与）するものです。

◇日本学生支援機構

奨学金の種類と貸与月額（平成23年度）

種類	区分		貸与月額	
			自宅通学	自宅外通学
奨学金 第一種	大学部		30,000円 54,000円	30,000円 64,000円
	短期大学部		30,000円 53,000円	30,000円 60,000円
	大学院	修士	50,000円 88,000円	
		博士	80,000円 122,000円	

奨学金 第二種	大学部・短期大学部	3万円・5万円・8万円・10万円・12万円
	大学院	5万円・8万円・10万円・13万円・15万円

※“第一種奨学金”は無利子。“第二種奨学金”は有利子。

※貸与月額は上記から奨学生が選択。

※入学時特別増額貸与奨学金については、ホームページ等でご確認のこと。

ホームページ <http://www.jasso.go.jp/> Tel. 0570-03-7240（ナビダイヤル・全国共通）

◇その他の奨学金

地方自治体や各種団体なども奨学金制度を設けています。貸与額や条件はそれぞれに異なります。詳細は出身地の都道府県・市区町村の教育委員会・各団体に問い合わせてください。

・香川綾奨励賞

自らの可能性を高く大きく伸ばし、つねに自分自身を向上させようと努力し、大きな成果をあげている学生を表彰し、奨励することを目的に設立されました。

対象者は、学業成績が優秀で課外活動や学内行事、ボランティア活動にも積極的に参加している学生です。教職員推薦、香川綾奨励賞運営委員会による選考を経て、理事長が決定します。なお、受賞者には賞状・楯のほか、金一封が授与されます。

・修士課程特別奨学制度

大学院入学試験および学部成績が極めて優秀な者（学内者、学外者を問わない）、栄養学・保健学各専攻それぞれ入学時に2人以内（合計4人以内）に入学金および授業料の全額を免除とします。

学納金は実験実習教育研究費・施設費のみとなります。

・修士課程長期履修学生制度

職業を有している等の事情により、標準修業年限の2年で修了することが困難と認められる者に対し、修士課程を3年間で計画的に教育課程を履修し、修士の学位取得を可能にすることができる制度です。修士課程の2年分の学納金の総額を、3年間で納入します。

■ 大学院修学休業制度

現職教員が大学院に在学し、専修免許状を取得するために、教育公務員特例法等の一部を改正する法律（平成 12 年 4 月 28 日第 52 号）により、創設されたものです。平成 13 年 4 月 1 日から実施されています。国公立学校の教員（教諭、養護教諭、栄養教諭及び講師）で、一種免許状または特別免許状を持つ者が、任命権者の許可を受けて、大学院で 1 年を単位とし 3 年を越えない期間で、研修を行うために休業することができる制度です。

■ 就職支援

希望通りの職業まで万全のナビゲートをしています。

本学の就職状況のいちばんの特徴は、きわめて高い就職率を安定して保っていることです。公務員（教員や地方自治体の栄養士など）、病院・福祉関係施設など、資格免許を活かした専門職への就職は、景気や社会動向の影響を比較的受けにくいのがその理由です。また、食品企業を中心とした一般企業からの求人も多く、将来への選択肢がますます増えています。学生がこのメリットを最大限に活かせるよう、本学では万全の就職活動支援プログラムを用意し、個別に丁寧な支援を徹底しています。

○就職支援の体制

本学では、学生一人ひとりが希望通りの就職を実現できるよう、新たに組織した就職委員会と就職支援事務部署である就職担当を中心に学園全体が一体となった就職支援体制を整えています。

関係教員だけでなく在学生と就職担当との意見・情報交換を通して基本的な支援方針を策定しています。その方針に基づき、就職担当はガイダンスの企画・実施、個人面談など、具体的な支援を担当しています。さらに、3 年次に全員と面談を行う等学生一人ひとりの希望進路を把握して情報提供を行なうなどきめ細やかな個々への支援も行なっています。

○就職活動支援プログラム

就職担当では、学生の希望業種を問わず、適切なアドバイスができるよう就職活動支援プログラムを企画しています。

その中心がガイダンスで、就職活動の仕組みや選考方法の理解と対策、求人情報収集の方法や就職情報サイトの利用方法など実際に就職活動を進めるために必要な内容構成で年に数回開催しています。これらのガイダンスと個人面談により、学生はいつでも「今、自分が何をすべきか」を知ることができる体制となっています。

また、バラエティ豊かなテーマ別プログラムも開催しています。文部科学省大学教育・学生支援推進事業 [テーマ B] 学生支援推進プログラムの助成を受けたコミュニケーション力やプレゼン能力を高める講座、卒業生から直接話しを聞いたり相談できる就活フォーラム、就活準備のための就職対策講座（4～5 回）やメイク・マナー講座、選考試験対策のための SPI2 およびエントリーシート対策講座や模擬面接会、学内での企業セミナーなどさまざまな方向から学生への就職支援を実施しています。

○卒業後のフォローアップ体制

本学には卒業生対象の求人も数多く寄せられます。管理栄養士や臨床検査技師として現場経験を有する者や、すぐに勤務できる家庭科教諭や養護教諭です。

一方卒業生からの転職情報の請求や相談も少なくなく、これらの対応として大学 HP 卒業生のページに求人情報を公開しています。また、対面、電話、メールによる転職相談にも随時対応するなど卒業後も密度の高いフォローを続けています。

○その他の取り組み

【インターンシップ制度】

栄養学の専門的知識だけでなく、広い視野、実践力、経験を身につけて学生が社会に飛び立てるよう、夏期休暇の約 2 週間を利用して、企業などに赴き、実際の仕事を体験。自分の適

性を見極めながら、社会人としての心構えや企業が求める人材像などを学ぶことができます。

＜病院、保健センター、保育園などの福祉施設への就職志望者＞

資格取得のために関係省庁が求める以上の期間・内容を満たした学外実習を実施しています。社会人として必要なすべての資質の向上を目指したプログラムが組まれています。

＜企業の研究員、総合職への就職志望者＞

企業の採用担当者を招き話を聞く機会を設けています。また、プロの就職コーディネータが講師となり就職活動のノウハウを教える勉強会を実施しています。

＜公務員志望者＞

外部から講師を招いて「公務員講座」を実施しています。

■ 住居の紹介

自宅外通学をする学生のために、通学の便を考えた近隣アパート等住居の紹介を行なっています。

■ 充実の IT 環境

全学生に e-mail アドレスを貸与しています。授業のレポートや先生への質問、また就職情報などにも活用しています。

また、学内情報掲示配信システム (i-Compass) を導入しており、休講や求人情報等も携帯電話やパソコン等で確認することができます。

【本年度の報告】

○キャンパス間接続回線の見直し

各社のサービス内容及びコストを調査したが、平成 23 年度現在では本学の要件 (下記) に合致したサービスが提供されていないため、平成 24 年度も継続して調査及び検証を行います。

＜要件の一例＞

・ e-learning システムによる学外への動画配信 (大量のデータ送信) への対応が可能であること

・ メール等、学外から学内へのアクセスを行うサービスについて、メインの回線に障害が発生した場合であっても短時間の停止で復旧が可能であること

○製品寿命を迎える機器類のリプレイス

教研系 PC 類 (PC213 台・プリンタ 85 台)、事務系 PC 類 (PC119 台・プリンタ 5 台) のリプレイスを行いました。併せて、駒込証明書自動発行機 (平成 16 年 2 月導入) のリプレイスも実施しました。

(9) 主な教学関係事業の概況

① 栄養学部

○ 全国栄養士養成施設協会認定の「栄養士実力試験」の平成 23 年度結果は、栄養学部実践栄養学科は 39 人受験、A 認定 35 人 (89.7%)、B 認定 4 人 (10.3%) 保健栄養学科栄養科学専攻は 89 人受験、A 認定 79 人 (88.8%)、B 認定 8 人 (9.0%) C 認定 2 人 (2.2%) でした。平均点は実践栄養学科 45.7 点、栄養科学専攻 45.0 点、全国平均 39.7 点を上回りました。

○ 「フレッシュマンキャンプ」は、授業の一環として 1 年生全員参加で実施されます。

実践栄養学科は、4 月 15 日 (金) に予定しておりましたが、震災の関係から 2 月 4 日 (土) 本学坂戸キャンパスにおいて、クラス対抗のスポーツ大会に、食文化栄養学科は、4 月 28 日 (木) ~ 30 日 (土) 山梨国際自然大学校を予定しておりましたが震災の関係から、9 月 21 日 (水) ~ 23 日 (金) に延期しましたが、台風上陸により 9 月 23 日 (金) 本学坂戸キャンパスにおいて、アドベンチャーツアーに変更し実施しました。保健栄養学科栄養科学専攻は、9 月 21 日 (水)・22 日

(木)国立女性教育会館、保健栄養学科保健養護専攻は、9月22日(木)本学坂戸キャンパスにおいて実施しました。

- 平成24年度栄養学部入学生を対象に、以下の「フォローアッププログラム」を実施しました。
 - ・早期入試区分(推薦入試・A0入試)の入学予定者を対象に、平成23年12月17日(土)「入学準備セミナー」(基礎教養講座・在学生と語ろう)を開催し、実践栄養学科162人・保健栄養学科栄養科学専攻72人・保健栄養学科保健養護専攻32人・食文化栄養学科72人、計338人(欠席19人)が参加しました。

また、同日保護者向けセミナーを実施したところ、174人の参加がありました。

- ・入学予定者を対象に、入学前課題(化学:Lesson1・2、生物:一步一步学ぶ生命科学)及び読書レポート課題を配布。化学の入学前課題Lesson1・2の答案を採点し、本人に結果を送付。生物については、Webシステムで実施しました。
- ・入学後、4月のオリエンテーション期間中に化学および生物の「理解度テスト」を実施し、化学のテスト成績下位60人を対象に「フォローアップセミナー」を4回実施、生物のテスト成績下位対象者の補習はWebで実施しました。

- 非常に厳しい就職環境が続くなか、学生への個別支援を強化した結果、全体で前年度の就職率を上回りました。学科・専攻別の就職率は以下のとおりです。()内は22年度。

実践栄養学科		95.4%	(96.0%)
保健栄養学科	栄養科学専攻	92.9%	(89.9%)
保健栄養学科	保健養護専攻	100.0%	(83.1%)
食文化栄養学科		92.1%	(91.2%)
合 計		94.8%	(92.2%)

- 平成21年度文部科学省大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラムに採択された取り組みとして前年度に引き続き「コミュニケーションスキルアップ講座」を10月から12月にかけて実施しました。受講者は287人でした。

- 学内での企業説明会および選考会を積極的に開催し、学生の企業研究や応募の機会を増やしました。

- 就職活動用証明写真の学内撮影会を実施しました。利用者は160人でした。

- 学納金納入が遅滞している学生については、状況を確認し、日本学生支援機構や本学独自の奨学金(横巻のぶ記念奨学金・北郁子奨学金)、民間の教育ローンの情報を提供しました。

- クラブの活動状況により、23団体(体育系クラブ9団体、文科系クラブ14団体)に1,462,000円の補助を行いました。例年同様10万円を限度として、体育系クラブは連盟登録費・文科系クラブは演奏会会場費の1/3を補助しました。また、楽器購入のため30万円の特別補助を行いました。

- 5月28・29日開催の第32回若葉祭は、両日とも雨でしたが、8,464人の入場者がありました。産学官連携を行っている福井県、埼玉農業大学校、坂戸観光協会、地域企業の参加により、いっそう連携が深まりました。

- 学内スポーツ大会(春:ソフトバレー、秋:卓球)をサポートしました。

- 臨床心理士2人と精神科医2人の計4人で、月平均12回カウンセリング室を開室しました。来室延べ人数は120人、うち新規の来室は28人でした。1名がインターカー講習会に参加し、スキルアップをはかりました。

- 若葉寮内機器備品について計画的に取替えを実施中です。平成23年度は前年度に引き続き冷蔵庫の取替えを行いました。寮内学生の交流を図るため、新入生歓迎コンパや追い出しコンパを実施しました。

②大学院

- 職業等の事情により標準修業年限の2年で修了することが困難と認められる者に対して、修士課程を3年間で計画的に教育課程を履修して修士の学位取得を可能にすることができる修士課

程長期履修学生制度を開始し、平成 23 年度には長期履修学生が 7 人在籍していました。

- 極めて優秀な者に対し入学金、授業料を免除する修士課程特別奨学生制度を開始し、平成 23 年 10 月 25 日・26 日に実施した入学試験の結果、合格者はありませんでした。
- 大学院栄養学専攻の授業科目（実践栄養学専門演習）を大学院の公開講座として実施し、外部からの受講者（11 人）を受け入れました。

③短期大学部

- 教育の充実にかかわる支援では、平成 23 年度より 1 年生を対象に必修科目として通年で「就職支援演習 I・II」（各 1 単位）を開講し、2 年生は従来どおり就職活動ならびに社会人の基本的マナーの習得として有効な「マナー講座」（全学生が対象）の開講、「基礎教養特論」の開設により基本的知識・常識を身につけることができるような授業等を行いました。
- 1 年生を対象にクラス親睦を目的としたデイキャンプを、4 月 28 日（金）に北区防災センターおよび飛鳥山博物館（3 館）で実施しました。
- 平成 23 年度入学生を対象に、以下のフォローアッププログラムを実施しました。
 - ・早期入試区分（推薦入試・A0 入試）の入学予定者を対象に、平成 22 年 12 月 18 日（土）「入学前準備教室」として、入学課題（「読書レポート課題」、新編「理科総合 A」、「理科総合 A・ニューサポート」、「一步一步学ぶ生命科学（人体）：基礎編」）を配付し、①一步一步学ぶ生命科学（人体）：基礎、②入学前成果確認テストについて、③在学生と語ろう（グループワーク）を各 40 分ずつ開催し、136 人（欠席 4 人）が参加しました。また、欠席者および合格が決定した入学予定者全員に配付物を送付しました。
 - ・入学予定者を対象に、3 月下旬に基礎学力アップ講座を予定していましたが、震災の関係により、入学後オリエンテーション時に基礎テストを実施しました。その結果により「化学」受講対象者には 4 月の土曜日を使い 2 日間の講座、「国語」受講対象者には毎週水曜日 4 時限目に組み入れ全 10 回で実施しました。
 - ・年度初めには「授業サポートコーナー」、「苦手克服タイム」を設定し、学生からの質問コーナーを設けました。
 - ・栄養士実力試験対策授業を実施しました。
 - ・再試験の対策授業を実施しました。

④栄養学部二部

- 二部再生に向けた取り組み
 - ・e-learning については、各授業担当教員に少しずつ浸透し、受講する正規学生及び科目等履修生と教員との間で具体的に活用が進んでいます。
 - ・広報部と協力して実施している入学相談会では参加人数も増加し、入学につながる状況が見えます。その結果、平成 24 年度においては、新 1 年生が 16 人入学しました。また、科目等履修生は前期継続 22 人、新規 30 人となり計 52 人を数えました。
 - ・就職状況においては、平成 23 年度卒業生で教職課程を修了し、教職を希望している学生について、公立・私立の常勤または非常勤として、希望通り全員(6 人)が就職できました。

⑤短期大学部および栄養学部二部

- 就職対策委員会の組織を軸として教職員間で情報交換を密に行い、学生個人が抱える問題を解決することにより、進路の明解化を図りました。また、キャリアコースを開設して初めて就職支援を行いました。が、学歴・社会経験を活かして栄養士として就業する学生が多かった。個人で開業する学生もおり、個人のライフスタイルに適した就職活動の支援を行うことにより、栄養学を基礎知識として活動する場が拡大している。
- 臨床心理士 2 人が平均すると平日週 1 回、土曜日は月 1 回のカウンセリング室を開室しました。

- クラブの活動状況により、体育系クラブ 4 団体、文科系クラブ 14 団体の計 18 団体に補助を行いました。
- 10月29日・30日開催の第42回駒込祭は、3,285人の入場者がありました。産学官連携を行っている福井県や、農林水産省関東農政局東京地域センター、地域企業の参加により、一層の連携が深まりました。
- 平成23年度自己点検・評価を実施し、報告書にまとめ学園ホームページに掲載しました。
- 駒込教務学生部では、学業や学生生活等について、教科担当教員およびクラス担任と連絡を密に行い、学業生活が円滑に続けられるよう支援しています。また、様々な家庭環境の学生の精神的な面での支援として、学生相談室についても利用し易い環境を整えました。

⑥ 専門学校

- (社)全国調理職業訓練協会認定「介護食士3級・春の講座」は3月11日に起きた東日本大震災の影響で中止といたしました。秋の介護食士3級講座は11月4日より2月24日まで行われ、受講者29人が全員認定を受けました。なお、2級の講座は平成23年度は行っていません。
- 西オーストラリア州パースにある公立高等専門学校(Polytechnic West)への短期留学について平成23年度は東日本大震災の影響もあり留学期間を短縮し、7月9日～8月1日の期間、4人の製菓科テクニクコース生が参加しました。3週間の短い期間でしたが、ホストファミリーに大変恵まれ、無事、帰国しました。
- (社)全国調理師養成協会認定「食育インストラクター認定資格」、(社)全国調理職業訓練協会「介護食士3級資格」「キュービズ&バンケット(C&B)コーディネーター3級資格」「カフェクリエイター3級資格」(社)日本フードアナリスト協会認定「フードアナリスト4級検定資格」等の資格を取得できる多彩なカリキュラムを実施いたしました。
- 平成23年度より、専門学校では自己点検・自己評価報告書を作成し、学園のホームページ上に載せています。

⑦ 国家試験合格状況

- 第26回管理栄養士国家試験(3月18日実施)は、栄養学部実践栄養学科(新卒)受験者226人、合格者226人で合格率100%でした。全国の受験者数は21,268人、合格者数は10,480人で合格率は49.3%でした。
- 第58回臨床検査技師国家試験(2月22日実施)は、栄養学部保健栄養学科(新卒)受験者42人、合格者35人で合格率は83.3%でした。全国では、受験者4,012人、合格者3,027人で合格率75.4%でした。

⑧ 私立大学戦略的研究基盤形成支援事業

- 「先進的な栄養学による坂戸市民の健康づくり」(研究代表者:副学長 香川靖雄 研究組織名:地域食育センター)は、目的として、国民の健康増進のため女子栄養大学が周辺の坂戸市民と協力し先進的な栄養学を応用して指針を作ることを掲げた研究プロジェクトで、平成21年度の採択を受けて本学研究者30人あまりが参加して進めてまいりました。平成23年度は3年計画の最終年度にあたるため、取り決めに従い「研究成果報告書の概要」を文部科学省に提出(平成23年9月)し、に事後評価を受けました。その結果については平成24年2月29日付23高私助第51号により、「B評価(研究成果は上がっている。)」を得ました。

⑨平成 23 年度の科学研究費補助金採択状況

【継続】

研究代表者	種目	研究課題名
栄養学部 准教授 水崎富美	基盤研究(C)	音楽教育を通しての「市民形成」の現状と社会的紐帯の再生一日仏比較を通して―
栄養学部 教授 橋本紀子	基盤研究(B)	子どものジェンダー平等意識形成と学校に関する総合的研究～戦後男女共学制の総括～
栄養学部 教授 田中明	基盤研究(C)	メタボリックシンドローム関連の遺伝子多型を利用したテイラーメイド食事療法の開発
栄養学部 専任講師 藤倉純子	基盤研究(C)	超鏡 (Hyper Mirror) による食の安心・安全教育の国際交流型実践
栄養科学研究所 専任講師 香川雅春	研究活動スタート支援	若年女性の体型認識の触発因子とヘルスプロモーションによる是正効果の検証

【新規】

栄養学部 教授 堀江修一	挑戦的萌芽研究	時間栄養学による記憶学習能力の解析と認知症対策への基礎的研究
栄養学部 教授 遠藤伸子	基盤研究(C)	養護診断の体系化に関する基礎的研究―養護診断枠組みの定義及び分類の検討
栄養学部 教授 川端輝江	基盤研究(C)	不飽和脂肪酸の母児間移行と児の成長・発達に与える影響
栄養学部 准教授 平田裕美	基盤研究(C)	青年期の子どもを取り巻く環境と身長・体重の時系列的変化
栄養学部 専任講師 大沼久美子	基盤研究(C)	養護診断過程における心理的及び社会的アセスメント指標の開発に関する研究
栄養学部 助教 福島真実	基盤研究(C)	遺伝子多型に基づくテーラーメイド栄養指導による健康づくり支援効果の検討
栄養学部 特別研究員 茂木輝順	若手研究(B)	戦後日本における思春期男子への性教育実践の実態と課題に関する研究
栄養学部 助教 伊藤早苗	研究活動スタート支援	骨量維持を目的とした適正リン摂取量の解明 ―「多面的評価」をもとに―

⑩補助金

- 教育研究財源の確保としての補助金の確保について、私立大学等経常費補助金（国庫補助）の一般補助及び特別補助などの外部資金の確保に努力しましたが、国の補助金制度の大幅な変更で、特別補助の大幅削減があったため、例年を大きく下回る補助金となりました。

3. 当該年度のその他の事業の概要

- 「創立 80 周年記念募金」が平成 23 年 4 月 1 日よりスタートし、1 年目である平成 23 年度は個人寄付 19,253 千円、法人寄付 8,750 千円、合計金額 28,003 千円でした。「綾栄会募金（教育・研究促進事業）」は個人寄付 7,831 千円、法人寄付 1,300 千円、合計金額 9,131 千円でした。平成 23 年度の合せた募金総額は 37,134 千円となり、前年度より 13,951 千円の増加（個人寄付 10,606 千円増、法人寄付 3,345 千円増）となりました。
- 平成 11 年発足の『香川綾記念講師派遣事業』は、主として高校生対象の出張講義への講師派遣としてスタートしましたが、現在はその依頼先・内容も多様化し、高校への派遣が 2/3、その他が 1/3 強の比率となっています。中でも各都市の教育委員会や学校関連団体、各自自治体の保健・健康・医療・福祉関係部署からの要請が目立ち、その結果、昨年度の総派遣件数は 354 件

となりました。

- 新聞・雑誌・テレビ等のメディア対応も、年間 140 件程の取材依頼が入ってきています。先生方への取材とともに、昨年度から他社で刊行されたカフェテリア紹介本をきっかけに、「女子栄養大学」のタイトルをつけた書籍が 11 冊出版された（出版部含む）他、引き続き出版の依頼が届いています。それに伴い、松柏軒、プランタン、栄養クリニックへの取材も増え、雑誌、テレビ等でも数多く紹介されました。これとは別に、学内で行われるイベント開催により大学名等の周知も図られています。
- 学園ホームページについては、大・短ホームページ、専門学校ホームページでのブログの開設（大学は保健科学専攻）、ニュース等の更新を頻繁に行うとともに、情報・コンテンツの整理を進め、附帯施設のホームページの整理・更新を行っています。出版部との連携も図り、学園全体への理解を深めるよう取り組んでいます。
- 募集の後方支援として社会人対象の夜間説明会を実施し、学部二部・短大キャリアコース・専門学校の募集力の支援をしました（7 月～3 月に 8 回実施）。その他定期的に首都圏の高校 936 校の訪問を行いました。
- 国立科学博物館『大学パートナーシップ』に平成 20 年度より入会。その後も継続入会し、学生の学習支援の一助としています。
- 校歌 CD を制作し 5 年目となり、4 月入学生約 1,000 人に、また平成 22 年度入学式より、式次第の体裁を整えて制作、配付しました。
- 平成 23 年度に『女子栄養大学・女子栄養大学短期大学部保護者会』が発足。1・2 年生保護者約 1300 人で構成され、「保護者会総会」「栄養と料理セミナー」などを開催。オープンキャンパスでは、保護者役員による「施設見学案内」や「入学相談」を実施しました。
- 文部科学大臣認定の「平成 23 年度教員免許状更新講習」を 8 月 8 日（月）～12 日（金）の日程で実施し、実人数 257 人が受講しました。
- 文部科学大臣認定の「平成 23 年度免許法認定講習（養護教諭・専修免許）」を一期：8 月 9 日（火）～12 日（金）、二期：8 月 15 日（月）～18 日（木）の日程で実施し、一期 24 名、二期 22 人が受講しました。
- 代理部では、学生からの要望と売上げ向上のため坂戸店に『タダコピ』（1 ヶ月 30 原稿、最大 300 枚）を設置しました。
- 図書館
 - ・電子ジャーナル・オンラインデータベースの提供、洋古書、研究図書、専門図書の充実により学術情報の整備を図りました。
 - ・電子ジャーナル「ScienceDirect」のオンライン講習会を 2 回案内し、計 28 人の教職員・大学院生の参加がありました。
 - ・教育・研究支援については、①授業用参考図書の設置②読書教育の一環として学生による書店選定、施設見学ツアーの実施等による図書館利用推進③新規科目『読書』の課題図書整備④本学の特色ある専門授業や講義を OCW(Open Course Ware)へ更新ならびに追加し、公開しました。
 - ・大学図書館ブラウジングルームで、次の 3 件の展示を行い、図書館の活性化を図りました。
- ①平成 23 年 11 月 5 日「図書館と県民のつどい埼玉 2011」（於 桶川市民ホール・さいたま文学館）において、埼玉県大学・短期大学図書館協議会(SALA)加盟機関参加の“大学図書館のお宝、お見せします”コーナーに、「ガクショク シャショク 《バランスメニュー》」のテーマで、学食や社食についての歴史、各種メディアで話題になっている関連図書、研究成果、献立集などの資料を展示しました。また、終了後、大学図書館ブラウジングルームで学内向けの展示を開催しました。
- ②平成 24 年 3 月 10 日より野口義恵 画帖『ぢきろう』の展示を大学図書館ブラウジングルームで開催しました。『ぢきろう』には、昭和 10 年代から 50 年代の菓子、野菜、果物、料理などが描かれていて、画家野口義恵は、戦後、復刊した『栄養と料理』の表紙画を 3 年間描いており、本学と親交のあった画家である。
- ③洋古書を研究設備補助の採択を受け、整備し、平成 24 年 3 月 10 日より大学図書館ブラウジングルームで展示、公開しました。

○香川昇三・綾記念展示室

- ・両キャンパスの学園祭に参加しました。坂戸キャンパスでは、“若葉祭”期間に企画展示テーマ「香川綾の調理教育」を中心に見学者へ説明しました。駒込キャンパスの“駒込祭”でも、ブース設置により「調味パーセントを体験しよう」を行いました。
- ・平成23年9月 学長(室長)同席のもと、取材・撮影があり、『昭和怪物伝』(男の隠れ家特別編集 時空旅人 Vol.4 三栄書房刊)に、「日本人の健康指標を世界一に押し上げた実践栄養学の母」というタイトルで創立者香川綾の記事が掲載されました。
- ・平成23年11月 「学園の歴史を記録する」ために、本学梅岡総治理事に学長(室長)同席のもと、5回のインタビューを実施し、それらをまとめました。
- ・平成24年3月 企画展示コーナーに「香川綾の実践 料理カードと計量化の歩み」のテーマで開催をはじめました。駒込展示コーナーについても、同様のテーマ展示をはじめました。
- ・平成24年3月 5号館2階VIPルーム内展示ケースに展示室所蔵品から創立者の写真、『栄養と料理』創刊号、彩りの良い遺品を選んで展示しました。
- ・食具の小さなミュージアムでは、同ミュージアム所有の器を広く紹介するため、出版部との連携により、実際に「料理を盛る、食具を使う」というコンセプトで記事の連載を『栄養と料理』11月号からはじめました。

4. 特長ある取り組みの概要

(1) 社会貢献・連携活動の概要

○官学連携では、

- ①荒川区と「あらかわ満点メニュー」開発支援業務委託契約を交わし6年目となります。これまでに区内の飲食店70店、111のメニュー開発に携わりました。
- ②豊島区と『区内6大学との連携・協働に関する包括協定』を締結し4年目となります。平成20年4月「としまコミュニティ大学」が発足し、以降学長講演の他に、「食と健康」をテーマに3回連続の講義を例年2~3回実施しています。
- ③秋田県と提携して4年目となり新たな事業、学生対象のセミナー「あきたゼミ」を両キャンパス(駒込 12/12 坂戸 10/27)で開催しました。「食生活指導士のためのスキルアップ講座」(7月)・「季節の食材とワインの会」(2月)には、秋田県産食材を使用した料理が提供され、秋田県担当者による食材説明、観光紹介を行いました。
- ④福井県と平成22年10月に提携協定を締結。2回目となる『「福井の食」研究ゼミ』(8/7~9)には学生6名が参加(引率高橋勝美准教授)して、研修が行われました。福井県主催「第5回全国高校生食育王選手権大会」には、香川学長が審査員長として協力、ブースで書籍・焼き菓子の販売も実施。7月・10月には、両カフェテリアで「福井ランチ」を開催。大学農園では、勝山水菜の栽培が行われ、収穫した勝山水菜は坂戸カフェテリアで提供されました。その他、若葉祭・駒込祭へも県として出展が行われ、「江」三姉妹の着ぐるみが登場しました。
- ⑤埼玉県とは平成23年11月に包括的な連携で調印しており、県、JAさいたま、イオンとの連携により、地産地消弁当を開発、販売しました。

○産学連携では、

- ①イトーヨーカ堂と連携協定を結び、毎月2点のお弁当開発を行い23年度も継続しています(24年度も実施)。
- ②その他、様々な商品開発等にも取り組んでいます。

○高大連携では、

- ①高校教員との勉強会、本学関係分野科目担当教諭(家庭・養護・栄養教諭等)とのセミナー実

施により、本学への意識づけを積極的に実施しました。

新たに埼玉県高校教員対象「実践的職業教育推進プロジェクト」研修講座を開講、東京都教員対象では3年継続して「専門性向上研修 家庭ⅡB」が開催されました。

- ②連携校として新たに2校（埼玉県私立浦和学院高等学校、埼玉私立山村国際高等学校）と協定を締結、また、埼玉県農業関係高等学校（9校）と教育連携の締結をしました（平成24年3月現在30校）。連携校とはテーブルマナー講習会や出張講義等を実施しております。

埼玉県教育委員会依頼のサイエンス・パートナーシップ・プロジェクト（SPP）の実験講義（講師：山田和彦教授）を実施し、9校50人の生徒が受講しました。

- 大学公開講座として、5月29日（日）に若葉祭公開講座（受講者58人）、10月15日（土）・22日（土）・29日（土）に「現代人と食生活」と題する秋の大学公開講座（申込者425人）を実施しました。また、彩の国大学コンソーシアム公開講座に参画し、9月12日（月）実施の本学担当回では90人が受講しました。
- 地域連携の一環として、彩の国いきがい大学の「若い世代との交流」授業を11月30日（水）に受け入れ、いきがい大学生125人と本学学生22人が参加しました。

（2）生涯学習

- 社会通信教育の受講申込者数は1,308人（平成22年度1,135人）、修了者数684人、優秀修了者表彰式で5人が文部科学大臣賞を受賞しました。
- 「チャレンジ！家庭料理検定-基礎編-」講座の受講申込者数66人、修了者数27人でした。
- DVDを主教材とした「管理栄養士国家試験合格支援講座」の受講申込者数は117人、修了者数26人でした。
- 「食生活指導士」資格を設けて3年が経過しましたが、資格取得対象者は通信教育修了生、女子栄養大学（食文化栄養学科、保健養護専攻、栄養学部二部）・女子栄養大学短期大学部在学・卒業生で取得条件をクリアした人です。資格取得者数は、「食生活指導士2級」が285人（認定者合計1,127人）、「食生活指導士1級」が179人（認定者合計591人）でした。
- 「食生活指導士」資格取得者対象に「スキルアップ講座」を2回開講し、参加者は192人でした。
- 社会通信教育協会認定資格生涯学習インストラクター申請者は1級4人（取得者合計179人）、2級63人（取得者合計1,816人）でした。
- 公開講座等受講者数は夏期スクーリング236人、月例スクーリング448人、「エキスパートスクエア2011」136人、「料検合格対策講座」3・4級98人、1・2級214人でした。
- 管理栄養士オープン模試受験者数は、第1回目は784人（内訳：通信705人、会場79人）で、第2回目は1,207人（内訳：通信1,028人、会場179人）でした。
- 女子栄養大学生涯学習講師認定者は9人（認定者合計302人）でした。
- 料理教室参加者の延べ人数は962人、子ども料理教室参加者の延べ人数は441人でした。
- 家庭料理技能検定の志願者は3,098人、うち本学学生1,011人（平成22年度は2,947人、うち本学学生970人）、成績優秀者表彰式で4人3団体が文部科学大臣奨励賞を受賞しました。
- テキスト「栄養学」「食品衛生」「公衆衛生」「西洋料理」「料理の基本カード」「検定学習ガイド1・2級」の再販「家庭料理技能検定過去問題集2012」を作成しました。

（3）国際交流の概要

- 学生海外研修は次の6件ありました。
 - ・オーストラリア栄養学研修（夏）実施期間：H23.8.21-9.4（15日間）参加者：13人（大学13人）
 - ・オーストラリア英語研修（夏）実施期間：H23.8.21-9.11（22日間）参加者：5人（大学5人）
 - ・オーストラリア栄養学研修（春）実施期間：H24.3.10-3.25（16日間）参加者：12人（短大部12人）

- ・ヨーロッパ洋菓子研修（春）実施期間：第1班 H24. 2. 18-2. 26（9日間）参加者：22人（専門学校9人、大学13人）、第2班 H24. 2. 19-2. 26（8日間）参加者：27人（大学27人）
 - ・ヨーロッパ料理研修（春）実施期間：H24. 2. 19-2. 26（9日間）参加者：46人（専門学校22人、大学24人）
 - ・中国食文化研修（春）実施期間：H24. 3. 6-3. 11（6日間）参加者：11人（専門学校4人、大学7人）
- 全コースとも、研修中の事故トラブル等はありませんでした。
- 食文化栄養学科海外実習（国際食活動フィールドワーク実習）は、H23. 8. 29-9. 5（8日間）、ベトナム国際食活動フィールドワーク研修を実施、8人（文化3年4人、文化4年4人）の参加者があり、無事終了しました。
 - 訪日中外国人研究者の招聘は次の1件がありました。
 - ・H23. 10. 5 マレーシア・マラ工科大学 Mahenderan Appukutty 先生受入れ 受入れ担当：香川雅春専任講師 ランチョン公開セミナーおよび大学院特別セミナー
 - 海外短期交流は次の8件、7人がありました。
 - ・H23. 9. 16-10. 1 日笠志津専任講師 オーストラリア アカデミックオフィス駐在
 - ・H23. 6. 5-6. 8 香川雅春専任講師 タイ The 7th Asia Pacific Conference on Clinical Nutrition 学会における口頭発表
 - ・H23. 7. 12-7. 17 武藤志真子教授 シンガポール XI Asian Congress of Nutrition2011(第11回アジア栄養学会議)でのポスター発表(筆頭)
 - ・H23. 7. 12-7. 17 藤倉純子准教授 シンガポール XI Asian Congress of Nutrition2011(第11回アジア栄養学会議)でのポスター発表(筆頭)
 - ・H23. 7. 12-7. 18 衛藤久美助教 シンガポール XI Asian Congress of Nutrition2011(第11回アジア栄養学会議)参加
 - ・H23. 7. 12-7. 17 伊藤早苗助教 シンガポール XI Asian Congress of Nutrition2011(第11回アジア栄養学会議)でのポスター発表(筆頭)
 - ・H23. 8. 7-8. 13 佐久間慶子教授 米国 FASEB Summer Research Conferences でのポスター発表(連名)
 - ・H23. 10. 19-10. 22 香川雅春専任講師 韓国 第43回 APACPH(アジア・太平洋地区公衆衛生学校連合体)口頭発表
 - 国際交流セミナーは、次の2件が実施されました。
 - ・H23. 10. 5 マレーシア・マラ工科大学 Mahenderan Appukutty 先生 ランチョン公開セミナー：テーマ「マレーシアのベジタリアンダイエット(宗教など食文化的な観点を含めて)」、大学院特別セミナー：テーマ大学院特別セミナー「牛初乳と、そのスポーツ競技における効果)」
 - ・H24. 2. 10 梨花女子大学大学院修士課程2年の Jinhee Hur さん 大学院特別セミナー：テーマ「Interaction between maternal iron intake and GSTM1/GSTT1 polymorphism on neonatal birth weight」
 - ソウル国立大学との合意書に基づく学生受入れとして、H23. 9. 1-H24. 8. 31、ソウル国立大学校生活科学大学との学生交流プログラムに基づき、4年生、朴焯彦(パクソオン)の受入れがありました。指導教員：石田裕美教授
 - 海外からの訪問としては、次の1件がありました。
 - ・H23. 12. 1 Korea Centers for Disease Control & Prevention, Oh 先生他2人受入れ 受入れ担当：石田裕美教授および武見ゆかり教授

III. 財務の概要

平成 23 年度決算の概要を、資金収支計算書、消費収支計算書および貸借対照表に基づきそれぞれの主な内容につき千円単位（未満四捨五入）でご報告します。

1 資金収支計算書

単位：千円(未満四捨五入)

【収入の部】

- ① 学生生徒等納付金 4,650,159
学納金については平成 15 年度をピークに下降しておりましたが、ここ数年は若干の定員を上回る状況が続いております。
- ② 手数料収入 84,064
入学検定料収入は逐年減収傾向にありましたが、平成 23 年度は学園の食育に関する活動の評価の現れか入学志願者が増加いたしました。
- ③ 寄付金収入 41,257
平成 23 年度の寄付金収入は 80 周年記念事業の初年度ということもあり、卒業生等を中心とした積極的な募金の活動の成果が得られました。
- ④ 補助金収入 350,175
平成 23 年度経常費補助金については制度の大幅な変更があり懸念したとおり、大幅に減額となりました。(昨年比▲16.5%)今後の補助金政策も年々見直しが図られ不確定な状況が続くものと判断しております。
- ⑤ 資産運用収入 175,487
運用収入は利息が為替によって変動する仕組み債が多いので、最高水準の円高により苦戦をしいられました。国内債券などによる運用をうまく取り組んだ結果ほぼ昨年並みの収入になりました。
また学園所有の不動産収入も安定的収入の要因となっております。
- ⑥ その他の収入 3,395,571
(事業収入 * 473,268)
(雑収入 62,559)
(借入金収入 300,000) 賞与資金短期借入
(前受金収入 2,482,496)
(その他の収入 77,248) 預り金・仮払金・仮受金等であります。
* 事業収入の内訳
補助活動収入 152,119
附属事業収入 259,901
受託事業収入 50,247
収益事業からの寄付 11,000
(代理部 11,000 出版部は本年度なし)

【支出の部】

- ① 人件費支出 3,030,225
人件費については、昨年度を約 39 百万円程度増加いたしました。これは退職者の増加と一部収益事業部からの配置換え等による増加となりました。
引き続き人件費圧縮の改善努力に努めてまいります。
- ② 教育研究経費 1,084,456
全体経費の昨年並み配分を実施いたしました。若干昨年より 45 百万円ほど増加いたしました。毎年圧縮政策を継続してきた結果による成果が現れておりますが今後も継続して参ります。

- | | | |
|--|---------|--------------------|
| ③ 管理経費 | 701,375 | |
| 全体経費の圧縮方針を継続により昨年並みの実績でありました。 | | |
| ④ 施設・設備関係支出 | 246,348 | |
| 昨年は坂戸キャンパスの学生食堂の増築がありましたが、今年度は震災の関係により少額ではありますが建物の補修工事等が発生いたしました。そのほか各教室の空調設備の改善等に積極的にとりくみました。 | | |
| ⑤ その他の主な支出 | 978,968 | |
| (借入金短期・長期返済支出) | 399,860 | |
| (借入金利息支払い) | 17,882 | |
| (資産運用支出) | 423,597 | |
| (その他支出) | 137,629 | 預り金・仮払金・仮受金等であります。 |

2 消費収支計算書

単位：千円(未満四捨五入)

【収入の部】

- ① 学生生徒納金から雑収入までについては、資金収支により説明しており、内容が重複いたしますので省略いたします。
 なお、寄付金収入に研究機器備品の現物寄付があり、寄付金収入が資金収支計算書より232千円増加しております。

【支出の部】

- | | | |
|---|-----------|--|
| ① 人件費 | 3,196,675 | |
| 教員人件費 | 1,370,981 | |
| 職員人件費 | 1,504,595 | |
| 役員報酬 | 46,750 | |
| 退職金 | 10,678 | |
| 退職給与引当金繰入 | 263,672 | |
| 退職給与引当金については、平成23年度をもって100%積み上げを完了いたしました。平成24年度からは引当金が大幅に減少する予定であります。 | | |
| ② 教育研究経費 | 1,572,248 | |
| このうち減価償却費は486,727千円です。その他は資金収支とほぼ同じです。減価償却費はリース取引に係る当年度費用分と同額が減価償却費の増額となっております。 | | |
| ③ 管理経費 | 780,048 | |
| このうち減価償却費は77,416千円です。その他は資金収支と同様です。 | | |
| ④ 資産処分差額 | 33,619 | |
| 今年度は通常の資産の取替更新時に発生する除却額と図書の除却によるものであります。 | | |

【消費収支差額の部】

当年度消費支出超過額は48,080千円、従って、前年度繰越消費超過額211,615千円から差し引いた163,534千円が翌年度繰越消費収入超過額になります。

【基本金組入額】

1号基本金284,811千円 2号基本金は1億円の組入と1億円の取崩により実質0円となりました。3号・4号については今年度の発生はありません。

合計284,811千円の組入額となりました。

予算組入額は194,189千円でしたから90,621千円の組入増加となりました。

その内容は、2号基本金の増額(平成24年3月理事会・評議員会承認)1億円によるものであります。

3 貸借対照表

単位：千円(未満四捨五入)

前年度からの増減につき主な理由をご報告します。(△は減少)

【資産の部】

<固定資産>

① 建物	△ 235,662
構築物	△ 21,324
教育研究機器備品	△ 116,038
その他の機器備品	△ 1,321

資産減少については、減価償却費によるものであります。

教育研究機器備品についてはリース取引の当年度返済分が加算されております。

③ 図書	16,423
------	--------

洋雑誌購入等による増加です。

<その他固定資産>

④ 退職給与引当特定資産	142,144
減価償却引当特定資産	27,856

退職給与引当金は今年度増額分であります。

<流動資産>

⑥ 現預金	332,129
-------	---------

⑦ 有価証券	223,598
--------	---------

手持ち流動性及び短期運用資産の増加によるものであります。

【負債の部】

<固定負債>

① 長期借入金	△ 99,860 (翌年度短期借入へ振替済)
---------	------------------------

23年度新規借入はありません。

② 退職給与引当金	136,449
-----------	---------

今年度退職者相当の今年度積み増し分であります。(引当率100%になります)

<流動負債>

特に金額に変動するものではありません。

【基本金】

① 第一号基本金	284,811
----------	---------

坂戸校舎・駒込校舎のGHP交換などによる基本金組入

② 第二号基本金	0
----------	---

坂戸・駒込校舎整備計画に伴う組入1億円・今年度取崩1億円、差額0円。

③ 第3号基本金	なし
----------	----

④ 第4号基本金	なし
----------	----

【消費差額の部】

当年度消費支出超過額は48,080千円、従って前年度繰越消費収入超過額211,614千円から差し引いた163,534千円が翌年度繰越消費収入超過額になります。

IV. 財務比率

財務比率表

区 分		19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
分類	比 率	算 式					
貸 借 対 照 表	消費収支差額構成比率	消費収支差額	2.3	1.6	1.2	0.7	0.6
		総資金					
	基本金比率	基本金	93.8	94.4	93.8	94.5	95.3
		基本金要組入額					
	固定比率	固定資産	87.6	88.9	86.9	85.3	83.6
		自己資金					
	固定長期適合率	固定資産	76.8	77.6	76.0	74.7	74.1
		自己資金+固定負債					
	流動比率	流動資産	310.6	319.3	320.0	335.8	428.7
		流動負債					
前受金保有率	現金預金	272.9	281.6	300.3	305.2	316.1	
	前受金						
総負債比率	総負債	21	20.6	21.2	20.9	21.1	
	総資産						
負債率	総負債-前受金	12.2	12	12.5	12.3	12.6	
	総資産						
基本金実質組入率	自己資金	96.7	92.5	95.2	95.4	95.9	
	基本金要組入額						
消 費 収 支 計 算 書	人件費比率	人件費	51.9	54.8	53.3	54.1	54.8
		帰属収入					
	教育研究経費比率	教育研究経費	29	28.6	27.3	26.4	27.0
		帰属収入					
	管理経費比率	管理経費	12.4	12.9	13	13.6	13.4
		帰属収入					
	消費支出比率	消費支出	95.3	97.3	94.8	95.1	96
		帰属収入					
	【経常経費依存率】	消費支出	125.8	122.6	121.4	118.8	120.4
		学生生徒等納付金					
	学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金	75.7	79.4	79.3	78.1	79.7
		帰属収入					
	寄付金比率	寄付金	0.5	0.7	2.2	0.5	0.7
帰属収入							
補助金比率	補助金	8.3	6.6	7.1	7.0	5.9	
	帰属収入						
基本金組入率	基本金組入額	4.5	5.7	7.3	6.8	4.9	
	帰属収入						